

公益社団法人日本薬理学会
令和5年度学術評議員会議事録

1. 日 時：令和5年3月21日（火・祝）10時00分～11時30分
2. 場 所：東京大学本郷キャンパス（文京区本郷）とオンラインによる開催
3. 学術評議員会構成員数：1,135名
4. 出席者：711名（オンライン参加を含む本人出席142名，委任状569名）
5. 議事の経過および結果

定款施行細則第32条に基づき，第147回関東部会長 廣瀬 謙造 氏が議長となり，本会議の成立を確認し，議事録署名人に安西 尚彦 氏，櫻井 隆 氏の2名を指名した。

最初に，古屋敷選挙管理委員長より，昨年11月21日に開票された令和6年に就任する役員候補者選挙結果が報告された。

第1号議案 令和4年度事業報告および収支決算の件

理事長より，総会資料に基づき令和4年度事業報告が報告された。続いて財務委員長より令和4年度収支決算が報告された。

監事より，令和4年度公益社団法人日本薬理学会の事業および決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された。

議長より，令和4年度事業報告および収支決算について付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した。

本件を総会に付議する。

第2号議案 令和5年度事業計画および収支予算の件

理事長より，令和5年度事業計画と収支予算は，昨年11月29日の理事会で承認され，既に内閣府に提出されており，1月からは本予算に基づいて執行されていることが報告された。総会資料に基づき令和5年度事業計画が説明され，続いて財務委員長より本事業計画に基づく令和5年度収支予算が説明された。

議長より，令和5年度の事業計画と収支予算について付議され本会議は満場一致でこれを承認した。本件を総会に報告する。

第3号議案 諸規則の件

総務委員長より，1) 定款施行細則，2) 名誉会員推薦規定・同運用基準，3) 永年会員推薦規定・同運用基準，4) 常置委員会規定，5) 役員等選挙実施規定，6) 薬理学振興助成事業選考規定，7) 共催協賛後援規則・同運用基準，8) 年会会計運用規則，9) 慶弔に関する取扱規則の変更について説明がなされた。

議長より，規則の変更が付議され，本会議は満場一致で承認，可決した。

本件を総会に付議する。

第4号議案 永年会員の件

議長より，理事会が推薦した10名の令和5年度新永年会員への推戴が付議され，本会議は満場一致で承認，可決した

永年会員：平藤 雅彦，前田 定秋，高野 一夫，土田 勝晴，中川 秀幸，
仲澤 幹雄，本多 秀雄，松岡 隆，山本 隆一，渡辺 卓司

本件を総会に付議する。

第5号議案 第98回年会長の件

議長より、1) 第98回年会開催を関東部会とすること、2) 理事会は、東邦大学医学部の赤羽 悟美 教授を第98回年会長として選考したことが報告された。赤羽 悟美 教授を第98回年会長に決定する件につき付議され、本会議は満場一致でこれを承認、可決した。

本件を総会に付議する。

第6号議案 新学術評議員の件

企画教育委員長より、企画教育委員会は新学術評議員候補者として30名を選定したことが報告された。

議長より、企画教育委員会が選定した候補者30名を令和5年度学術評議員に選任する件について付議され、本会議は満場一致でこれを承認、可決した。

本件を総会に付議する。

6. 1) 理事会、2) 総務委員会、財務委員会、編集委員会、研究推進委員会、広報委員会及び企画教育委員会の6常置委員会、3) 年会学術企画委員会、江橋賞選考委員会、賞等選考委員会、国際対応委員会、将来構想委員会、DX推進委員会の6特別委員会、4) 次世代の会の各活動状況が、総会資料に基づいて報告された。

7. 第97回年会準備報告

今井 由美子 第97回年会長より、第97回年会の準備状況が報告された。

8. 閉会挨拶

議長より、議事の終了を宣し、令和5年度の学術評議員会を閉会した。

以 上

公益社団法人日本薬理学会
令和5年度通常総会議事録

1. 日 時：令和5年3月21日（火・祝）10時00分～11時30分
2. 場 所：東京大学本郷キャンパス（文京区本郷）とオンラインによる開催
3. 総会構成員数：139名
4. 出席者：109名（オンライン参加を含む本人出席29名，議決権行使10名，委任状70名）
5. 出席理事 赤羽 悟美[理事長]

上原 孝，甲斐 広文，金井 好克，諫田 泰成，黒川 洵子，小泉 修一，杉山 篤，
津田 誠，橋本 均，廣瀬 謙造，古屋敷智之，三澤日出巳，南 雅文，柳田 俊彦，
山田 清文，若森 実

出席監事 上園 保仁

6. 議事の経過及び結果

定款第19条により，赤羽 悟美 理事長が議長となり，開会を宣した。

定足数を満たす代議員の出席を確認の後，議長は有効に成立した旨を告げ議案の審議に入った。議長は定款第23条に基づき議事録署名人に安西 尚彦 氏，櫻井 隆 氏2名の選任を議場に諮り，本会議は満場一致でこれを承認，可決した。

最初に，古屋敷選挙管理委員長より，昨年11月21日に開票された令和6年に就任する役員候補者選挙結果が報告された。

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算の件

理事長より，総会資料に基づき令和4年度事業報告が報告された。続いて財務委員長より令和4年度収支決算が報告された。

監事より，令和4年度公益社団法人日本薬理学会の事業および決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された。

議長より，令和4年度事業報告及び収支決算について付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した。

第2号議案 令和5年度事業計画及び収支予算の件

理事長より，令和5年度事業計画と収支予算は，昨年11月29日の理事会で承認され，既に内閣府に提出されており，1月からは本予算に基づいて執行されていることが報告された。総会資料に基づき令和5年度事業計画が説明され，続いて財務委員長より本事業計画に基づく令和5年度収支予算が説明された。

議長より，令和5年度の事業計画と収支予算について付議され本会議は満場一致でこれを承認した。

第3号議案 諸規則の件

総務委員長より，1) 定款施行細則，2) 名誉会員推薦規定・同運用基準，3) 永年会員推薦規定・同運用基準，4) 常置委員会規定，5) 役員等選挙実施規定，6) 薬理学振興助成事業選考規定，7) 共催協賛後援規則・同運用基準，8) 年会会計運用規則，9) 慶弔に関する取扱規則の変更について説明がなされた。

議長より，規則の変更が付議され，本会議は満場一致で承認，可決した。

第4号議案 永年会員の件

議長より、理事会が推薦した10名の令和5年度新永年会員への推戴が付議され、本会議は満場一致で承認、可決した

永年会員：平藤 雅彦、前田 定秋、高野 一夫、土田 勝晴、中川 秀幸、
仲澤 幹雄、本多 秀雄、松岡 隆、山本 隆一、渡辺 卓司

第5号議案 第98回年会長の件

議長より、1) 第98回年会開催を関東部会とすること、2) 理事会は、東邦大学医学部の赤羽 悟美教授を第98回年会長として選考したことが報告された。赤羽 悟美 教授を第98回年会長に決定する件につき付議され、本会議は満場一致でこれを承認、可決した。

赤羽 第98回年会長より挨拶がなされ、第98回年会は、令和7年3月に開催することが報告された。

第6号議案 新学術評議員の件

企画教育委員長より、企画教育委員会は新学術評議員候補者として30名を選定したことが報告された。

議長より、企画教育委員会が選定した候補者30名を令和5年度学術評議員に選任する件について付議され、本会議は満場一致でこれを承認、可決した。

7. 1) 理事会、2) 総務委員会、財務委員会、編集委員会、研究推進委員会、広報委員会及び企画教育委員会の6常置委員会、3) 年会学術企画委員会、江橋賞選考委員会、賞等選考委員会、国際対応委員会、将来構想委員会、DX推進委員会の6特別委員会、4) 次世代の会の各活動状況が、総会資料に基づいて報告された。

8. 第97回年会準備報告

今井 由美子 第97回年会長より、第97回年会の準備状況が報告された。

9. 閉会挨拶

議長より、議事及び報告の終了を宣し、令和5年度の通常総会を閉会した。

以 上

令和5年度

公益社団法人 日本薬理学会

学術評議員会・通常総会資料

令和5年3月21日(火・祝) 10時00分より
オンサイト(東京大学本郷キャンパス:文京区本郷)と
オンラインによるハイブリッド開催

資料目次

I.	令和4年度事業報告	1
II.	令和4年度決算報告	8
III.	令和5年度事業計画	19
IV.	令和5年度収支予算	22
V.	名誉会員候補者一覧	26
VI.	永年会員候補者一覧	27
VII.	部会選出新常置委員会委員一覧	28
VIII.	規則の制定・変更	29
IX.	理事会等報告	37
X.	委員会等報告	39
XI.	役員選挙等報告	50
XII.	新学術評議員候補者一覧	51
XIII.	薬理学エデュケーター認定者一覧	53

日本薬理学会ホームページ

〈 <https://www.pharmacol.or.jp> 〉

日本薬理学会ホームページ英語版

〈 <https://pharmacol.or.jp/e/> 〉

J P S ホームページ

〈 <http://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences> 〉

公益社団法人日本薬理学会
令和5年度学術評議員会及び通常総会

- 開催日時：令和5年3月21日（火・祝）10時00分より
- 開催場所：オンサイト（東京大学本郷キャンパス：文京区本郷）と
オンラインによるハイブリッド開催
- 付議事項
第1号議案 令和4年度事業報告及び収支決算承認の件
第2号議案 令和5年度事業計画及び収支予算の件
第3号議案 諸規則の件
第4号議案 永年会員の件
第5号議案 第98回年会長の件
第6号議案 新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

(任期：2022年9月5日から2024年に実施される代議員選挙の日まで)

【北 部 会】(19名)

飯塚 健治	飯村 忠浩	小原祐太郎	加藤 幸成	久米 利明	笹岡 利安
佐々木拓哉	佐藤 久美	丹野 孝一	中川 崇	中山 恒	新田 淳美
溝口 広一	森口 茂樹	谷内 一彦	柳川 芳毅	山脇 英之	結城 幸一
吉川 雄朗					

【関東部会】(50名)

相澤 直樹	安達 一典	天野 英樹	安西 尚彦	安東賢太郎	池谷 裕二
池田 和隆	石川 智久	石毛久美子	磯濱洋一郎	上田 泰己	大内 基司
大谷 直由	粕谷 善俊	亀井 淳三	木内 祐二	北嶋 聡	吉川 公平
木村 徹	小林 真之	坂本 謙司	櫻井 隆	佐藤 薫	沢村 達也
千本松孝明	高田 龍平	田中 光	田辺 光男	田野中浩一	茶木 茂之
辻 稔	富田 太郎	戸村 裕一	中原 努	中村 浩之	成田 年
橋本 弘史	林 啓太郎	林 良憲	藤田 智史	藤田 朋恵	堀 正敏
眞鍋 一郎	溝口 尚子	宮川 和也	森 友久	山澤徳志子	山田 充彦
山本 清文	吉澤 一巳				

【近畿部会】(50名)

相澤 風花	青山 峰芳	吾郷由希夫	東 泰孝	安東 嗣修	池田 康将
石井 優	石澤 啓介	石澤 有紀	衣斐 督和	今井由美子	岩田 和実
位田 雅俊	小澤光一郎	金子 周司	金田 勝幸	川畑 篤史	北市 清幸
北岡 志保	北中 純一	北中 順恵	北村 佳久	北村 佳久	合田 光寛
酒井 規雄	座間味義人	嶋澤 雅光	新谷 紀人	高井 真司	高田 和幸
田熊 一徹	田中 康一	田中 智之	土屋浩一郎	富田 修平	永井 拓
中川 貴之	奈邊 健	新村 貴博	野田 幸裕	野村 洋	檜井 栄一
日比野 浩	藤尾 慈	益岡 尚由	見尾 光庸	森岡 徳光	八木 健太
山村 彩	吉栖 正典				

【西南部会】(20名)

朝霧 成挙	池田 龍二	岩本 隆宏	香月 博志	金子 雅幸	河原 幸江
栗原 崇	齊藤 源頭	酒井 大樹	清水 翔吾	首藤 剛	高橋 富美
武田 泰生	西田 基宏	根本 隆行	東 洋一郎	本田 健	茂木 正樹
山口 拓	和田孝一郎				

以上 139 名

I. 令和4年度事業報告

1. 学術集会、講演会等の開催（定款第4条第1号）

(1) 年会の開催

第95回 日本薬理学会年会『The Pharmacology as Innovation Commons: Creation and Inheritance of its KnowLedge -イノベーション・コモンズとしての薬理学‘その知の創成と継承’』

2022年3月7日(月)～9日(水), 福岡国際会議場・福岡サンパレス(福岡市博多区)とオンラインの併用で開催

年会長: 宮田 篤郎(鹿児島大学・院医歯)

副年会長: 笹栗 俊之(九州大学・院医)

登録者数: 計1,582名, 演題数: 739演題

(学術評議員 531名, 一般会員 291名, 大学院生 196名, 学部学生 147名, 非会員 116名, シンポジスト 68名, 名誉会員 118名, 永年会員 115名)

会長講演 1演題, Plenary Lecture 1演題, 特別講演 11演題, 教育講演 3演題, JPS-ASCEPT Lecture 1演題,

受賞講演 4演題(江橋節郎賞 1演題, 学術奨励賞 3演題), シンポジウム等 43企画 164演題(年会企画, 企業企画, 次世代の会企画, 共催企画, 日本学術会議後援等), 一般演題 543(口演・ポスター), Late breaking 11

特別企画: 創薬シーズ特設シンポジウム

社交的行事: 吉岡充弘先生追悼セレモニー, 年会優秀発表賞授賞式及び情報交換会

アゴラ「学際領域から期待される薬理学のこれから」

第96回 日本薬理学会年会『つなげよう、つながろう - Let's be connected and united -』

2022年11月30日(水)～12月3日(土), パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)開催

年会長: 安西 尚彦(千葉大学・院医)

登録者数: 計1360名, 演題数: 790演題

(会員 760名, 関連学会会員 54名, 大学院生 158名, 学部学生 74名, 非会員 314名)

基調講演 1演題, 特別講演 8演題, 年会長特別企画講演 1演題, 教育講演 2演題, JPS-ASCEPT Lecture 1演題,

共催/共同主催シンポジウム 18企画 106演題, 共催/共同主催ワークショップ 3企画 9演題, 次世代の会企画シンポジウム 1企画 3演題, 教育企画シンポジウム 1企画 4演題, 企業企画シンポジウム 3企画 10演題, シンポジウム 20企画 77演題, ワークショップ 13企画 40演題, 若手研究者キャリア形成セミナー 2企画 2演題, ダイバーシティ推進セミナー 1企画 2演題, スポンサーダシンポジウム 3企画 6演題, みなとみらいサタデーランチタイムハーフアワーセミナー 2企画 2演題, PYJ2022企画年会アワードセッション 1企画 6演題, 一般演題(口演・ポスター) 545演題

(2) 地方部会

第146回日本薬理学会関東部会

部会長: 戸村 裕一(アステラス製薬)

2022年6月18日 オンライン開催

参加者 286名(近畿部会参加者を加え約400名), 特別講演 2, 特別シンポジウム 1, 一般演題(口演 36題, ポスター 22題)

第141回日本薬理学会近畿部会

部会長: 西山 成(香川大学・医)

2022年7月1日 オンライン開催

参加者 439名(関東部会参加者を含む), 一般演題(口演 49題)

第73回日本薬理学会北部会

部会長: 佐藤 久美(北海道科学大学・薬)

2022年9月18日 北海道科学大学(ハイブリッド開催)

参加者 115名, 一般演題(口演 38題)

第142回日本薬理学会近畿部会

部会長: 杉浦 麗子(近畿大学・薬)

2022年11月12日 近畿大学 東大阪キャンパス

参加者 208名, 特別講演 1, 一般演題(口演 50題)

第75回日本薬理学会西南部会

部会長: 齊藤 源頭(高知大学・医)

2022年10月1日 高知県立県民文化ホール

参加者約65名, ランチョンセミナー1, イブニングセミナー1, 一般演題(口演 20題, ポスター 10題)

(3) 市民公開講座の開催

- ・市民公開講座（第95回年会） 2022年3月6日 JR博多シティ10階会議室F（ハイブリッド開催）
『フレイルの予防と治療—若返りの方策』
演者：乾 明夫（鹿児島大学・院医歯），座長 宮田 篤郎（鹿児島大学・院医歯）
『今、改めて見直す糖尿病の治療～食事・運動・薬物療法～』
演者：大隈 俊明（九州大学・院医），座長 笹栗 俊之（九州大学・院医）
『スポーツにおける薬物ドーピング』
演者：鈴木 秀典（日本アンチ・ドーピング機構会長），座長 武田 泰生（鹿児島大学附属病院）
- ・市民公開講座（第75回西南部会） 2022年10月2日 高知県立県民文化ホール・グリーンホール
『くすりで治る？夫婦で立ち向かう前立腺の病気』
演者：清水 信貴（高知大学医学部附属病院），井上 啓二（高知大学・医），
- ・市民公開講座（第96回年会） 2022年11月29日 横浜市社会福祉センター4Fホール
『塩とカラダの新常識～生命の進化から病気まで～』 演者：西山 成（香川大学・医）
『くすりと上手につきあう方法～薬を飲むと副作用で損をするか？～』
演者：松本 直樹（聖マリアンナ医科大・薬）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

- ・次世代薬理学セミナー2022 in 札幌（第73回北部会開催時ハイブリッド開催）2022年9月18日
『次世代神経薬理学の最前線』

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

- ・看護薬理学カンファレンス2022 in 福岡（第95回年会開催時Web開催&オンデマンド配信），2022年3月6日
大会長：上原 孝（岡山大学・薬）
- ・看護薬理学カンファレンス2022 in 高知（第75回西南部会開催時ハイブリッド開催），2022年10月1日
大会長：西山 成（香川大学・医）
- ・看護薬理学カンファレンス2022 in 横浜（第96回年会開催時Web開催&オンデマンド配信），2022年11月20日
大会長：赤羽 悟美（東邦大学・医）

(6) 他学会等との共催学術集会の開催 別表を参照

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・第95回年会中の3月9日にASPET講師交換プログラムとしてDr. Katerina Akassoglou (Gladstone Institutes/UCSF) を招聘し、JPS-ASPET Lecture（オンライン講演）を開催した。
- ・第96回年会中の12月3日にASCEPT講師交換プログラムとしてDr. Karen Gregory (Monash University) を招聘し、ASCEPT Lecture2022（オンライン講演）を開催した。
- ・同じく第96回年会中の12月2日に第24回日韓薬理学合同セミナー（Chairman：安西 尚彦 教授）を開催し、Min-Goo Lee 教授（Yonsei University），小泉 修一 教授（山梨大学・医）によるSpecial Lectureのほか、日本側，韓国側からそれぞれ6演題の講演，およびポスター発表が行われた。
- ・第31回日本医学会総会が募集を行っている分科会・加盟学会のポスター展示企画に，これまでの薬理学会の取り組みや学術活動を掲載したポスターを作成し，提出した。

2. 学会誌等刊行物の刊行（定款第4条第2号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号	148巻1～4号, 149巻1～4号, 150巻1～4号	掲載頁数	(篇数)
① Review		112頁	(15)
② Full Paper		723頁	(83)
③ Short Communication		46頁	(10)
合計		881頁	(108)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）157巻1号（3,600部）, 157巻2号（3,600部）, 157巻3号（3,050部）,
157巻4号（3,250部）, 157巻5号（3,500部）, 157巻6号（3,550部）,

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	17頁	(17)
② 特集および総説	304頁	(62)
③ 実験技術	16頁	(3)
④ 創薬シリーズ	32頁	(5)
⑤ 新薬紹介総説	67頁	(7)
⑥ キーワード解説	0頁	(0)
⑦ 最近の話題	14頁	(13)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	1頁	(1)
⑨ 学会便り/研究室訪問	6頁	(6)
⑩ アゴラ	8頁	(4)
⑪ 広告	19頁	
⑫ 綴込み, 目次等上記以外の頁	94頁	
合計	578頁	(118)

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第4条第3号）

(1) 第16回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

今井 由美子（医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）

(2) 第38回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

北田 研人（香川大学 医学部 薬理学・助教）

『「全身性体液保持機構」の発見とその病態生理学的意義の解明』

清水 翔吾（高知大学 教育研究部医療学系基礎医学部門 薬理学・助教）

『排尿を促進する脳内物質の発見と排尿障害に対する新規薬物治療戦略の基盤構築』

西山 和宏（九州大学大学院 薬学研究院 生理学・講師）

『G タンパク質共役型受容体の機能性修飾に着目した薬理学的研究』

(3) 第27回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定

Boron delivery for boron neutron capture therapy targeting a cancer-upregulated oligopeptide transporter.
Junji Miyabe, Ryuichi Ohgaki, Keijiro Saito, Ling Wei, Lili Quan, Chunhuan Jin, Xingming Liu,
Suguru Okuda, Shushi Nagamori, Hiroshi Ohki, Kazuo Yoshino, Hidenori Inohara, Yoshikatsu Kanai.
Journal of Pharmacological Sciences, Volume 139, Issue 3, 2019, Pages 215-222.

Pretreatment with KGA-2727, a selective SGLT1 inhibitor, is protective against myocardial infarction-induced ventricular remodeling and heart failure in mice.

Yohei Sawa, Maki Saito, Nanae Ishida, Miho Ibi, Naoko Matsushita, Yoshihiro Morino, Eiichi Taira, Masamichi Hirose.

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 142, Issue 1, 2020, Pages 16-25.

第28回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定

Estrogen decline is a risk factor for paclitaxel-induced peripheral neuropathy: Clinical evidence supported by a preclinical study.

Tomoyoshi Miyamoto, Shiori Hiramoto, Ayano Kanto, Maho Tsubota, Masanori Fujitani, Hiroki Fukuyama, Shigekatsu Hatanaka, Fumiko Sekiguchi, Yuichi Koizumi, Atsufumi Kawabata.

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 146, Issue 1, 2021, Pages 49-7.

(4) 第95回年会優秀発表賞 (五十音順・14名)

安藤 千紘 (京都大・院薬)

伊藤 淳平 (大阪医科薬科大・医・薬理学)

尾山 実砂 (北里大・薬・薬理)

加世田 将大 (熊本大・院薬・遺伝子機能応用)

齋木 琢郎 (新潟大・院医・腫瘍内科学)

永井 裕崇 (神戸大・院医・薬理)

中野 雅友樹 (横浜市立大・院医・分子薬理神経生物)

中平 毅一 (奈良県立医科大・医・薬理学)

深澤 和也 (岐阜薬科大・機能分子学大講座・薬理学)

藤井 拓人 (富山大・薬・薬物生理学)

益田 俊 (広島大・院医・神経薬理学)

森屋 広美 (東京理科大・薬)

楊 熙蒙 (富山大・和漢研・神経機能学)

吉田 一貴 (高崎健康福祉大・薬)

第96回年会優秀発表賞 (五十音順・14名)

岩鶴 果奈 (静岡県立大・薬・生体情報)

川岸 裕幸 (信州大・バイオメディカル研)

川邊 陸 (九州大・院薬・薬理)

吉川 慧 (広島大・院医・医歯薬学専攻 神経薬理学)

河野 玲奈 (東京大・院薬・薬品作用)

朱 秋楠 (金沢大・医薬保健研究域薬学系・薬物動態)

田沼 将人 (大阪大・院薬・神経薬理学分野)

全 麗麗 (国立精神・神経医療研究セ・神経研究所・神経薬理)

長島 卓也 (日本大・医・生体機能医学系薬理)

西 清人 (滋賀医科大・薬理)

西中 崇 (近畿大・医)

古田 晴香 (京都大・院薬・生体機能解析学)

山口 智和 (秋田大・院医・分子機能学・代謝機能学)

山下 怜矢 (金沢大・薬学系)

(5) 2022年度 JPS 優秀査読者賞

・Hitoshi Ando (Kanazawa University)

・Katsuya Hirano (Kagawa University)

4. 薬理学に関する研究及び調査 (定款第4条第4号)

- (1) 第96回年会の事前参加登録者に一斉メールを配信し、参加者アンケートを行った。回収した参加者層のデータや参加目的、薬理学会の年会に対する様々な要望を分析し、今後の年会の活性化に生かしていく。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力 (定款第4条第5号)

- (1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛・後援 (令和4年総会資料掲載以降令和5年総会の前日まで)

後 援

1)	「子どもの薬を創る会」第2回セミナー	(オンライン開催)	令和4年3月30日
2)	日本ケミカルバイオロジー学会 第16回年会		5月30～6月1日
3)	第12回アジア/オセアニア国際老年学会議 (IAGG-AOR2023)		6月12日～15日
4)	第6回日本臨床薬理学会 関東甲信越地方会	(オンライン開催)	6月25日
5)	第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会	(オンライン開催)	7月2日
6)	第6回黒潮カンファレンス合同学会	(オンライン開催)	7月2日
7)	「子どもの薬を創る会」第3回セミナー	(オンライン開催)	7月14日
8)	第6回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会		7月30日
9)	第27回日本病態プロテアーゼ学会学術集会		8月19日, 20日
10)	生体機能と創薬シンポジウム2022		8月25日, 26日
11)	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022		8月27日
12)	第71回脳の医学・生物学研究会		8月27日
13)	第6回感覚フロントピア研究シンポジウム「異分野融合が拓くミライの感覚」		10月8日
14)	「子どもの薬を創る会」第4回セミナー	(オンライン開催)	10月13日
15)	創薬薬理フォーラム第30回シンポジウム		10月13日, 14日
16)	第15回VIP/PACAP 関連ペプチド国際シンポジウム		10月30日～11月2日
17)	日本薬物動態学会第37回年会		11月7日～10日
18)	日本動物実験代替法学会第35回大会		11月18日～20日
19)	Dementia Therapeutics and Cognitive Rehabilitation		11月21日～23日
20)	第32回神経行動薬理若手研究者の集い		11月29日
21)	「子どもの薬を創る会」第5回セミナー	(オンライン開催)	12月26日
22)	公開シンポジウム「新興・再興感染症の克服に挑む ～COVID-19 との闘いを経て～」		令和5年1月13日
23)	第32回日本循環薬理学会		1月27日

協 賛

1)	第29回HAB研究機構学術年会		令和4年5月19日～21日
2)	第24回活性アミンに関するワークショップ		8月27日

6. 会議等の開催状況（令和4年総会資料掲載以降令和5年総会前日まで）

総 会	令和4年度 通常総会	令和4年3月7日	(福岡)
	臨時総会	11月12日	(大阪)
学術評議員会	令和4年度	令和4年3月7日	(東京)
	臨時学術評議員会	11月12日	(大阪)
理 事 会	令和4年度 第3回	令和4年3月8日	(福岡)
	第4回	4月23日	(Zoom ミーティング)
	第5回	7月23日	(東京)
	第6回	11月29日	(横浜)
総務委員会	令和4年度 第1回	令和4年5月16日	(Zoom ミーティング)
	第2回	11月18日	(〃)
財務委員会	令和4年度 第1回	令和4年3月1日	(Zoom ミーティング)
	第2回	11月11日	(〃)
	令和5年度 第1回	令和5年3月17日	(〃)
	財務ワーキング	11月9日	(〃)
	会計監査 監事監査 持ち回り開催	令和5年1月6日, 2月21, 24日 3月6日	(東京) (東京&Zoom)
編集委員会	令和4年度 第1回	令和4年3月8日	(福岡)
	第2回	12月1日	(横浜)
研究推進委員会	令和4年度 第2回	令和4年6月20日	(Zoom ミーティング)
	第3回	10月19日	(〃)
	第4回	12月26日～令和5年1月12日	(メール会議)
	令和4年度 第1回	令和4年3月8日	(福岡)
広報委員会	第2回	5月27日	(Zoom ミーティング)
	第3回	12月1日	(横浜)
	第2回	令和4年9月13日	(Zoom ミーティング)
企画教育委員会	第3回	10月27日～31日	(メール審議)
	第4回	11月30日	(横浜)
	令和5年度 第1回	令和5年1月24日	(Zoom ミーティング)
	次世代の会	令和4年度 第1回	3月8日
賞等選考委員会	令和4年度 第1回	令和4年9月29日	(Zoom ミーティング)
	年会学術企画委員会	令和4年度 第2回	令和4年4月7日
江橋賞選考委員会	第3回	8月8日	(〃)
	令和5年度 第1回	令和5年1月6日	(〃)
	令和4年度 第1回	令和4年10月20日	(〃)
国際対応委員会	令和4年度 第1回	令和4年3月9日	(福岡)
	第2回	6月25日	(Zoom ミーティング)
将来構想委員会	令和4年度 第1回	令和4年5月31日	(Zoom ミーティング)
	第2回	8月2日	(〃)
	第3回	9月28日	(〃)
	第4回	12月20日	(〃)
DX推進委員会	令和5年度 第1回	2月28日	(〃)
	令和4年度 第1回	令和4年8月2日	(Zoom ミーティング)
	第2回	12月27日～令和5年1月5日	(メール会議)
百周年記念事業準備委員会	令和4年度 第1回	令和4年3月7日	(福岡)
	第2回	11月8日	(Zoom ミーティング)
	令和5年度 第1回	3月6日	(〃)
基金運用委員会	令和4年度 第1回	令和4年8月1日	(Zoom ミーティング)

7. 会員状況（令和4年12月31日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正 会 員		総 数
			学術評議員	一般会員	
139	131	120	1,177	2,377	3,805
+3	+6	+2	-28	-112	-132

新入会者数：335名，退会者数：466名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

II. 令和4年度決算報告

独立監査人の監査報告書

令和5年3月6日

公益社団法人日本薬理学会

理事長 赤羽 悟美 殿

中村公認会計士事務所

公認会計士 中村 友理香

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和4年1月1日から令和4年12月31日までの令和4年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和4年12月31日現在の令和4年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

公益社団法人日本薬理学会
理事長 赤羽 悟美 殿

令和5年3月6日
公益社団法人日本薬理学会
監事 上園 保仁
監事 原 英彰

私たちは、令和4年1月1日から令和4年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

貸借対照表

令和4年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	70,668	516,115	△ 445,447
預貯金	122,674,219	92,882,856	29,791,363
未収入金	16,526,909	2,824,536	13,702,373
前払金	2,924,675	5,061,482	△ 2,136,807
貯蔵品	485,240	3,390	481,850
流動資産合計	142,681,711	101,288,379	41,393,332
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	11,632,338	11,632,338	0
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	14,117,149	0
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,004,589	0
PYJ基金	1,680,000	0	1,680,000
年会運営資産	0	780,000	△ 780,000
部会運営資産	90,000	0	90,000
百周年記念積立資産	8,000,000	7,000,000	1,000,000
特定資産合計	113,306,900	111,316,900	1,990,000
(2) その他固定資産			
構築物	893,698	0	893,698
ソフトウェア	1,541,549	1,795,834	△ 254,285
電話加入権	2	2	0
保証金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	0	1,502,400	△ 1,502,400
その他固定資産合計	4,007,249	4,870,236	△ 862,987
固定資産合計	117,314,149	116,187,136	1,127,013
資 産 合 計	259,995,860	217,475,515	42,520,345
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	18,680,847	0	18,680,847
前受金	344,000	7,214,000	△ 6,870,000
未払金	53,595,886	6,148,790	47,447,096
預り金	1,430,550	335,578	1,094,972
流動負債合計	74,051,283	13,698,368	60,352,915
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	74,051,283	13,698,368	60,352,915
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取寄付金	4,770,000	3,780,000	990,000
指定正味財産合計	4,770,000	3,780,000	990,000
(うち特定資産への充当額)	(4,770,000)	(3,780,000)	(△7,778,400)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	181,174,577	199,997,147	△ 18,822,570
(うち特定資産への充当額)	(108,536,900)	(107,536,900)	(1,000,000)
正味財産合計	185,944,577	203,777,147	△ 17,832,570
負債及び正味財産合計	259,995,860	217,475,515	42,520,345

正味財産増減計算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
① 特定資産運用益	312,329	83,819	228,510
特定資産利息	312,329	83,819	228,510
② 受取会費	41,138,000	41,767,000	△ 629,000
一般会員会費	16,518,000	16,396,000	122,000
学術評議員会費	17,570,000	17,991,000	△ 421,000
賛助会員会費	7,050,000	7,380,000	△ 330,000
③ 事業収益	76,499,858	28,517,941	47,981,917
学術集会費収益	66,144,750	19,938,250	46,206,500
購読料収益	459,300	471,150	△ 11,850
論文掲載料収益	6,763,052	6,356,200	406,852
論文別刷料収益	2,309,296	405,281	1,904,015
広告掲載料収益	823,460	1,347,060	△ 523,600
④ 薬理学エデュケーター申請収益	285,000	270,000	15,000
申請料収益	285,000	270,000	15,000
⑤ 受取補助金等	11,871,033	11,370,450	500,583
学術集会補助金	5,371,033	3,520,000	1,851,033
指定正味財産からの振替額	6,500,000	7,850,450	△ 1,350,450
⑥ 受取寄付金	19,329,500	18,971,950	357,550
一般寄付金	300,000	0	300,000
学術集会賛助金	18,249,500	8,764,000	9,485,500
指定正味財産からの振替額	780,000	10,207,950	△ 9,427,950
⑥ 雑 収 益	44,502	673,564	△ 629,062
受取利息	1,792	1,441	351
雑 収 益	42,710	672,123	△ 629,413
経常収益計	149,480,222	101,654,724	47,825,498
(2)経常費用			
① 事 業 費	152,407,075	82,525,647	69,881,428
給与手当	4,900,735	3,197,112	1,703,623
法定福利費	946,638	405,935	540,703
中退共掛金	96,000	24,000	72,000
事務所借料	2,164,176	1,818,516	345,660
会 場 費	65,163,097	20,353,393	44,809,704
旅費・通信交通費	4,321,400	1,039,846	3,281,554
印 刷 費	4,425,698	3,102,792	1,322,906
会 議 費	5,238,995	857,933	4,381,062
謝金・その他	14,960,123	15,561,786	△ 601,663
懇親会費	293,650	73,832	219,818
編集・刊行費	14,446,460	12,763,710	1,682,750
国際情報発信強化費	6,500,000	7,850,450	△ 1,350,450
学術事業協力費	351,650	323,900	27,750
副 賞	1,160,940	1,090,490	70,450
消耗品費	73,150	0	73,150
業務委託費	25,485,978	12,681,792	12,804,186
租税公課	700,000	350,000	350,000
減価償却費	1,178,385	1,030,160	148,225

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管 理 費	15,895,717	13,414,215	2,481,502
給与手当	3,845,835	1,904,928	1,940,907
法定福利費	236,659	101,484	135,175
中退共掛金	24,000	6,000	18,000
事務所借料	927,504	779,364	148,140
旅費・通信交通費	1,129,896	1,044,249	85,647
印 刷 費	180,400	0	180,400
会 議 費	703,462	92,616	610,846
リース料	265,640	252,528	13,112
消耗品費	1,429,783	2,026,465	△ 596,682
支払手数料	2,006,572	1,756,267	250,305
慶弔費	399,201	241,043	158,158
業務委託費	4,147,510	4,415,071	△ 267,561
租税公課	13,200	4,400	8,800
減価償却費	328,962	581,400	△ 252,438
選 挙 費	103,480	0	103,480
雑 費	153,613	208,400	△ 54,787
經常費用計	168,302,792	95,939,862	72,362,930
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 18,822,570	5,714,862	△ 24,537,432
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	△ 18,822,570	5,714,862	△ 24,537,432
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
受取給付金	0	2,000,000	△ 2,000,000
經常外収益計	0	2,000,000	△ 2,000,000
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	2,000,000	△ 2,000,000
当期一般正味財産増減額	△ 18,822,570	7,714,862	△ 26,537,432
一般正味財産期首残高	199,997,147	192,282,285	7,714,862
一般正味財産期末残高	181,174,577	199,997,147	△ 18,822,570
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	6,500,000	6,500,000	0
受取寄付金	1,770,000	3,780,000	△ 2,010,000
一般正味財産への振替額	△ 7,280,000	△ 18,058,400	10,778,400
当期指定正味財産増減額	990,000	△ 7,778,400	8,768,400
指定正味財産期首残高	3,780,000	11,558,400	△ 7,778,400
指定正味財産期末残高	4,770,000	3,780,000	990,000
III 正味財産期末残高	185,944,577	203,777,147	△ 17,832,570

正味財産増減計算書内訳表
令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計						収益事業等会計 認定	法人会計	内部取引等 消去	合計
	公1	公2	公3	公4	共通	小計				
	学術集会等開催	刊行	褒賞	連携						
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
特定資産運用益						156,165		156,164		312,329
特定資産利息					156,165	156,165		156,164		312,329
受取会費						20,569,000		20,569,000		41,138,000
一般会員会費					8,259,000	8,259,000		8,259,000		16,518,000
学術評議員会費					8,785,000	8,785,000		8,785,000		17,570,000
賛助会員会費					3,525,000	3,525,000		3,525,000		7,050,000
事業収益						76,527,858			△ 28,000	76,499,858
学術集会費収益	66,172,750					66,172,750			△ 28,000	66,144,750
購読料収益		459,300				459,300				459,300
論文掲載料収益	4,038,000	2,725,052				6,763,052				6,763,052
論文別刷料収益		2,309,296				2,309,296				2,309,296
広告掲載料収益		823,460				823,460				823,460
薬理学エデュケーター申請収益							285,000			285,000
申請料収益							285,000			285,000
受取補助金等						11,871,033				11,871,033
学術集会補助金	5,371,033					5,371,033				5,371,033
指定正味財産からの振替額		6,500,000				6,500,000				6,500,000
受取寄付金						19,029,500		300,000	0	19,329,500
一般寄付金								300,000		300,000
学術集会賛助金	18,249,500					18,249,500				18,249,500
指定正味財産からの振替額	780,000					780,000				780,000
雑収益						98	0	44,404	0	44,502
受取利息	98					98		1,694		1,792
雑収益						0		42,710		42,710
経常収益計	94,611,381	12,817,108	0	0	20,725,165	128,153,654	285,000	21,069,568	△ 28,000	149,480,222
(2) 経常費用										
事業費										
給料手当	3,720,728	235,133	474,610	235,132		4,665,603	235,132			4,900,735
法定福利費	709,978	59,165	59,165	59,165		887,473	59,165			946,638
中退共掛金	72,000	6,000	6,000	6,000		90,000	6,000			96,000
事務所借料	1,236,672	309,168	309,168	154,584		2,009,592	154,584			2,164,176
会場費	65,163,097					65,163,097				65,163,097
旅費・通信交通費	4,252,747	65,480				4,318,227	3,173			4,321,400
印刷費	4,425,698					4,425,698				4,425,698
会議費	5,160,965	63,450		14,580		5,238,995				5,238,995
謝金・その他	14,431,273		556,850			14,988,123			△ 28,000	14,960,123
懇親会費	293,650					293,650				293,650
編集・刊行費		14,446,460				14,446,460				14,446,460
国際情報発信強化費		6,500,000				6,500,000				6,500,000
学術事業協力費				351,650		351,650				351,650
副賞			1,160,940			1,160,940				1,160,940
消耗品費		73,150				73,150				73,150
業務委託費	23,404,015	1,294,016	262,649	262,649		25,223,329	262,649			25,485,978
租税公課	483,730	216,270				700,000				700,000
減価償却費	920,160					920,160	258,225			1,178,385
事業費計	124,274,713	23,268,292	2,829,382	1,083,760	0	151,456,147	978,928	0	△ 28,000	152,407,075
管理費										
給料手当								3,845,835		3,845,835
法定福利費								236,659		236,659
中退共掛金								24,000		24,000
事務所借料								927,504		927,504
旅費・通信交通費								1,129,896		1,129,896
印刷費								180,400		180,400
会議費								703,462		703,462
リース料								265,640		265,640
消耗品費								1,429,783		1,429,783
支払手数料								2,006,572		2,006,572
慶弔費								399,201		399,201
業務委託費								4,147,510		4,147,510
租税公課								13,200		13,200
減価償却費								328,962		328,962
選挙費								103,480		103,480
雑費								153,613		153,613
管理費計								15,895,717	0	15,895,717
経常費用計	124,274,713	23,268,292	2,829,382	1,083,760	0	151,456,147	978,928	15,895,717	△ 28,000	168,302,792
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 29,663,332	△ 10,451,184	△ 2,829,382	△ 1,083,760	20,725,165	△ 23,302,493	△ 693,928	5,173,851	0	△ 18,822,570
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 29,663,332	△ 10,451,184	△ 2,829,382	△ 1,083,760	20,725,165	△ 23,302,493	△ 693,928	5,173,851	0	△ 18,822,570
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 29,663,332	△ 10,451,184	△ 2,829,382	△ 1,083,760	20,725,165	△ 23,302,493	△ 693,928	5,173,851	0	△ 18,822,570
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 29,663,332	△ 10,451,184	△ 2,829,382	△ 1,083,760	20,725,165	△ 23,302,493	△ 693,928	5,173,851	0	△ 18,822,570
一般正味財産期首残高										199,997,147
一般正味財産期末残高										181,174,577
II 指定正味財産増減の部										
受取補助金	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000
受取寄付金	1,770,000	0	0	0	0	1,770,000	0	0	0	1,770,000
一般正味財産への振替額	△ 780,000	△ 6,500,000	0	0	0	△ 7,280,000	0	0	0	△ 7,280,000
当期指定正味財産増減額	990,000	0	0	0	0	990,000	0	0	0	990,000
指定正味財産期首残高	780,000	0	0	0	0	780,000	0	3,000,000	0	3,780,000
指定正味財産期末残高	1,770,000	0	0	0	0	1,770,000	0	3,000,000	0	4,770,000
III 正味財産期末残高	1,770,000	0	0	0	0	53,784,191	1,908,911	130,251,475	0	185,944,577

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券については、原価法によっている。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
既刊紙は1冊を1円として評価している。
メダルは最終仕入による原価法。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
定額法による。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産 (単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	11,632,338	0	0	11,632,338
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	0	0	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,004,589	0	0	12,004,589
PYJ基金	0	1,680,000	0	1,680,000
年会運営資産	780,000	0	780,000	0
部会運営資産	0	90,000	0	90,000
国際情報発信強化資産	0	6,500,000	6,500,000	0
百周年記念積立資産	7,000,000	1,000,000	0	8,000,000
合 計	111,316,900	9,270,000	7,280,000	113,306,900

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

特定資産 (単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債に 対応する額)
薬理学基金	50,000,000	-	(50,000,000)	-
国際基金	11,632,338	-	(11,632,338)	-
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	-	(14,117,149)	-
刊行基金	15,782,824	-	(15,782,824)	-
褒賞基金	12,004,589	-	(12,004,589)	-
PYJ基金	1,680,000	(1,680,000)	-	-
部会運営資産	90,000	(90,000)	-	-
百周年記念積立資産	8,000,000	(3,000,000)	(5,000,000)	-
合 計	113,306,900	(4,770,000)	(108,536,900)	(-)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
構築物	920,260	26,562	893,698
ソフトウェア	6,377,300	4,835,751	1,541,549
合 計	7,297,560	4,862,313	2,435,247

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
社債・第10回みずほフィナンシャルグループ社債	30,296,100	29,717,700	578,400
社債・三井トラストHD株第3回無担保社債	30,523,200	29,928,000	595,200
合 計	60,819,300	59,645,700	1,173,600

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	0	6,500,000	6,500,000	0	指定正味財産
持田記念医学財団補助金 (第95回年会)	(公財)持田記念医学薬学振興財団	0	500,000	500,000	0	
日本医学会連合補助金 (第95回年会)	(一社)日本医学会連合	0	300,000	300,000	0	
内藤記念財団補助金 (第95回年会)	(公財)内藤記念科学振興財団	0	200,000	200,000	0	
日本生命科学アカデミー補助金 (第95回年会)	日本生命科学アカデミー	0	100,000	100,000	0	
公益信託児玉記念基礎医学研究助成基金 (第95回年会)	鹿児島大学医歯学総合研究科	0	100,000	100,000	0	
福岡コンベンションビューロー助成金 (第95回年会)	(公財)福岡観光コンベンションビューロー	0	700,000	700,000	0	
部会開催助成金 (第73回北部会)	北海道科学大学	0	158,906	158,906	0	
開催補助金 (JPW2022)	(学)聖マリアンナ医科大学	0	500,000	500,000	0	
学会・研究会援助金 (JPW2022)	(学)聖マリアンナ医科大学聖医学会	0	50,000	50,000	0	
開催補助金 (JPW2022)	(公財)中外創薬科学財団	0	175,000	175,000	0	
開催補助金 (第75回西南部会)	(一社)高知県医師会	0	80,000	80,000	0	
二国間交流セミナー助成金 (JPW2022)	文部科学省	0	7,127	7,127	0	
安全・安心な横浜MICE開催支援助成金 (JPW2022)	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	0	2,500,000	2,500,000	0	
合 計		0	11,871,033	11,871,033	0	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除 (受取補助金)	△ 6,500,000
目的達成による指定解除 (受取寄付金)	△ 780,000
合 計	△ 7,280,000

8. 資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき、オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、当面事務局を移転する予定もないことから、資産除却債務を合理的に見積もることができない。そのため、当該債務に見合う資産除却債務を計上していない。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

該当なし。

財 産 目 録

令和4年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金	手元保管	70,668		
	預貯金	普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	17,104,297		
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	11,418,666		
		ゆうちょ銀行定期貯金	13,000,000		
		ゆうちょ銀行通常貯金	16,305,612		
		ゆうちょ銀行振替貯金	4,520,507		
		JPW2022口座	60,325,137		
		<現金・預貯金計>		122,744,887	
	未収入金	収納代行会社	437,000		
		学術評議員会費(78名分)	1,152,000		
		和文誌購読料	456,300		
		和文誌掲載料	396,000		
		論文別刷料	362,120		
		バックナンバー売上金	3,000		
		学術集会広告料	55,000		
		JPW関連収入	13,665,489		
		<未収入金計>		16,526,909	
	前払金	第97回年会	1,900,000		
		その他前払金	1,024,675		
	<前払金計>		2,924,675		
貯蔵品	既刊誌(2021, 2022年)	3,390			
	メダル	481,850			
<貯蔵品計>		485,240			
流動資産合計			142,681,711		
(固定資産) 特定資産	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	40,000,000		
		定期預金・みずほ銀行本郷支店	10,000,000		
	<薬理学基金計>		50,000,000		
	国際基金	投資有価証券	海外の学会との連携事業の原資である(公益目的保有財産)	11,632,338	
			<国際基金計>		11,632,338
	振興基金	学術講演基金	投資有価証券	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座、及び次世代薬理学セミナー開催事業等の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
				<学術講演基金計>	
	刊行基金	投資有価証券	刊行事業、薬理学に関する研究及び調査事業の原資である(公益目的保有財産)	15,782,824	
			<刊行基金計>		15,782,824
	褒賞基金	投資有価証券	研究業績を表彰する事業の原資である(公益目的保有財産)	12,004,589	
			<褒賞基金計>		12,004,589
	PYJ基金	ゆうちょ銀行通常貯金	年会及び部会の特別企画用の寄附金	1,680,000	
			<PYJ基金計>		1,680,000
	部会運営資産	ゆうちょ銀行通常貯金	部会の寄付金である	90,000	
			<部会運営資産計>		90,000
百周年記念積立資産	投資有価証券 ゆうちょ銀行通常貯金	百周年記念事業の積立金である(特定費用準備資金)	7,282,400		
		<百周年記念積立資産計>		8,000,000	
<特定資産合計>		113,306,900			

その 他 固 定 資 産	構築物	事務局建具	事務局建具の増設分である	893,698
	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	1,541,549
			<ul style="list-style-type: none"> ┌ うち公益目的事業に使用 └ うちその他の事業に使用 	307,440 1,234,109
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり、公益目的事業に使用している	2
	保証金	榊学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			<ul style="list-style-type: none"> ┌ うち公益目的保有財産25% └ うち管理目的として使用する財産75% 	393,000 1,179,000
			<その他固定資産計>	4,007,249
固定資産合計				117,314,149
資産合計				259,995,860
(流動負債)	仮受金	JPW	JPW仮受未精算金	18,680,847
			<仮受金計>	18,680,847
	前受金	2023年一般会員会費(6名分) 2023年学術評議員会費(8名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 次年度の会費である。	51,000 60,000
		部会参加登録費	第147回関東部会の参加登録費である	145,000
		バナー広告料	ホームページのバナー広告料である	88,000
			<前受金計>	344,000
	未払金	給与等	職員の給与等である	995,871
		社会保険料	事業主負担分である	285,228
		代理店委託費	学会誌の代理店委託費である	489,570
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費及び会計監査費用等である	4,330,033
		その他未払金	薬理学振興助成事業等の未払分である	2,400,765
		JPW関連費用	JPW2022開催費用の未払分である	44,394,419
		消費税	当年度未払消費税である	700,000
			<未払金計>	53,595,886
預り金	職員他源泉税	職員給与等の源泉所得税である	260,529	
	職員社会保険料等	職員から預かった社会保険料等である	149,021	
	新入会員会費等		21,000	
	その他預り金	学術集会の準備金である	1,000,000	
		<預り金計>	1,430,550	
流動負債合計				74,051,283
(固定負債)				0
固定負債合計				0
負債合計				74,051,283
正味財産				185,944,577

Ⅲ. 令和5年度事業計画

日本薬理学会は、薬理学会会員に活発で刺激的な学術活動の場を提供するべく、今期の活動目標である「Diversity・Integration・Sustainability」を下記の通り実行致します。

1. Diversity

- 日本薬理学会の学術活動を活性化するために、学術団体（日本医学会・日本医学会連合・生物科学学会連合・日本脳科学関連学会連合・日本学術会議 等）の活動を通じて他学会との学術交流を推進します。
- 世界における日本薬理学会の役割を認識し、IUPHAR（International Union of Basic and Clinical Pharmacology）をはじめ世界各国の薬理学会との国際的連携を発展させてまいります。

2. Integration

- 日本薬理学会の「知的資産」を継承し、将来に向けて大きく発展させるために、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し活用致します。
- 薬理学会年会および各部会における画期的な学術プログラム企画を支援します。
- 原著英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」から世界に向けた質の高いサイエンスの発信と、総説和文誌「日本薬理学雑誌」から会員に向けた有用な情報の提供を推進します。
- 産官学の連携を促進するべく、「オープンイノベーション活動」を推進します。
- 日本薬理学会創立100周年を迎える2026年度に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。

3. Sustainability

- 次世代を担う薬理学研究者と薬理学教育者の育成に注力いたします。
- 薬理学会会員が学会活動を持続し活躍できるよう支援する取り組みを進めます。
- 学会活動の持続性を支える財政基盤の安定化と事務局運営体制の整備に取り組みます。

日本薬理学会創立100周年に向けて更なる発展を目指して目標を実行してまいり所存でございます。
会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

理事長 赤羽 悟美

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

(1) 年会の開催

- 第97回 日本薬理学会年会（第44回日本臨床薬理学会学術総会と同時期開催）
年会長：今井 由美子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）
2023年12月14日～16日 神戸国際会議場，神戸国際展示場2号館

(2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- 第147回 日本薬理学会関東部会 部会長：廣瀬 謙造（東京大学・医）
2023年3月21日 東京大学本郷キャンパス・ハイブリッド開催
- 第148回 日本薬理学会関東部会 部会長：田中 光（東邦大学・薬）
2023年6月17日 オンライン開催
- 第143回 日本薬理学会近畿部会 部会長：野田 幸裕（名城大学・薬）
2023年6月24日 ウィンクあいち
- 第74回 日本薬理学会北部会 部会長：久場 敬司（秋田大学・医（現：九州大学・医））
2023年9月16日 カレッジプラザ（秋田県）
- 第76回 日本薬理学会西南部会 部会長：筒井 正人（琉球大学・医）
2023年10月7日 琉球大学医学部
- 第149回 日本薬理学会関東部会 部会長：木内 祐二（昭和大学・医）
2023年10月14日 昭和大学上條記念館

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して市民公開講座を開催する予定である。

- ・第97回年会時を含めて、計3回の開催を予定している。

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化および国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参加を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。Web配信により全会員が無料で視聴できる。2023年は第147回関東部会、第76回西南部会に合わせて計2回の開催を予定している。

(5) 看護薬理学カンファレンス2023の開催

会員数の少ない領域（保健学・看護系大学あるいは医療機関における教育研究者や看護職者など）に対し、薬理学会との交流の機会を提供し、同時に本会の若手会員のキャリア開発を支援することにより、薬理学教育・研究の益々の発展に資する企画として年会、地方部会と協力し、看護薬理学カンファレンスを開催する。

- ・第148回関東部会（2023年6月17日）および第97回年会（2023年12月14日-16日）に合わせて2回の開催を予定している。

(6) 新薬理学セミナー2023の開催

- ・最近のデジタルトランスフォーメーション（DX）の動向を視野に入れて、本会および日本臨床薬理学会双方の今後の発展に寄与しうる、富岳を活用したプレジジョンメディシンを加速する臨床・創薬ビッグデータ研究に焦点を当てて開催する。

「富岳の街からの次世代薬理学」（第97回年会開催時）2023年12月14日（予定）

- ・将来の薬理学分野の活性化や広がり貢献できるDigital Pharmacology Conference（DPC）のコンセプトの更なる発展を目指して、第2回DPCを第149回日本薬理学会関東部会（2023年10月14日）のサテライト企画として開催する

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciencesを全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2023年刊行予定：151巻1～4号、152巻1～4号、153巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2023年刊行予定：158巻1～6号 計6冊

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している。第16回選考は「トランスレーショナルリサーチ・応用」の研究領域で、推薦を受け付けた。

- ・第16回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第147回関東部会会期中（2023年3月21日）に行われる。

今井 由美子（（国研）医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）

『ウイルスに対する宿主生命システムの動作原理の解明と新規治療基盤の確立』

- ・第17回江橋節郎賞は5月末日までに「基礎」の領域での募集を公告し、推薦締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第38回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、第147回関東部会会期中（2023年3月21日）に行われる。

北田 研人（香川大学・医・助教）

『「全身性体液保持機構」の発見とその病態生理学的意義の解明』

清水 翔吾（高知大学・医・助教）

『排尿を促進する脳内物質の発見と排尿障害に対する新規薬物治療戦略の基盤構築』

西山 和宏（九州大学・院薬・講師）

『Gタンパク質共役型受容体の機能性修飾に着目した薬理学的研究』

- ・第39回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会で決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

JPS 優秀論文賞は、過去3年間にJPSに掲載された論文の中から選出されてきたが、2023年以降は、授賞年度の前年1年間にJPSに掲載された原著論文の中から選考し、その著者に授与することを決定した。移行期間である2023年度の授賞選考対象論文には2020年、2021年出版分を含めることができる。

- ・第27回JPS優秀論文賞受賞者および第28回JPS優秀論文賞受賞者に賞状と副賞を授与する。
- ・第29回JPS優秀論文賞3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第97回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciencesの査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体として国際連携を推進する。

(2) 日本医学会との連携

第31回日本医学会総会の開催に協力する。

(3) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。連合の一員として、行政等への提言、働きかけを行う。

(4) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

(5) 国内の関連学術団体と連携して年会で共催シンポジウム等を開催する。

(6) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・JPS-ASPET 講師交換プログラム
ASPET2023 Annual Meeting (2023年5月18～21日, St.Louis) に講師派遣予定
第97回年会会期中 (2023年12月, 神戸国際会議場) に講師招聘予定
- ・第9回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting (中国・上海)

5 薬理学エデュケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及および研究水準向上への貢献を目的として、薬理学エデュケーター認定事業を行っている。毎年、6月1日から30日まで申請を受け付ける。

6 その他

1 会 員

- ・2022年度末の会員数は2021年度末の会員数3,937名から若干、減少する見込みである。

2 業務執行体制について

- ・代表理事、業務執行理事、年会長、事務局で定期的にミーティングを開催し、事業の円滑な運営、理事会の業務執行に協力する。

3 社会に向けて

- ・科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうため、公開講座をとおして啓発活動を行う。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

4 事務局体制について

- ・常勤2名による事務局体制が発足し、業務の引継ぎを進めている。
- ・職員の健康と生活を守るために「新型コロナウイルス対策に係る申合せ」を策定し、在宅勤務の環境を整備した。

IV. 令和5年度収支予算

令和5年度収支予算

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

(単位:円)

	令和5年度予算額	令和4年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	(393,000)	(100,000)	(293,000)	
基金運用益	393,000	100,000	293,000	
② 受取会費	(40,550,000)	(41,630,000)	(△ 1,080,000)	
1 一般会員会費	16,500,000	16,500,000	0	
2 学術評議員会費	17,000,000	17,000,000	0	
3 賛助会員会費	7,050,000	8,130,000	△ 1,080,000	
③ 事業収益	(50,892,800)	(101,647,000)	(△ 50,754,200)	
1 学術集会会費収益	(43,507,800)	(93,617,000)	(△ 50,109,200)	
参加登録費	19,868,000	39,220,000	△ 19,352,000	
器械展示料・予稿集広告料	11,174,800	27,647,000	△ 16,472,200	
懇親会費	2,345,000	5,140,000	△ 2,795,000	
ランチョンセミナー	10,120,000	21,610,000	△ 11,490,000	
2 購読料	(455,000)	(510,000)	(△ 55,000)	
3 論文掲載料	(5,340,000)	(5,820,000)	(△ 480,000)	
4 論文別刷料	(740,000)	(700,000)	(40,000)	
5 広告掲載料	(850,000)	(1,000,000)	(△ 150,000)	
④ 薬理学エデュケーター申請	(300,000)	(0)	(300,000)	
申請料収益	300,000	0	300,000	
⑤ 受取補助金等	(12,150,000)	(8,750,000)	(3,400,000)	
1 指定正味財産からの振替額	6,500,000	6,500,000	0	
2 学術集会補助金	5,650,000	2,250,000	3,400,000	
⑥ 受取寄付金	(4,822,275)	(23,740,000)	(△ 18,917,725)	
1 指定正味財産からの振替額	950,450	0	950,450	
2 学術集会賛助金	3,871,825	23,740,000	△ 19,868,175	
⑦ 雑収益	(1,400)	(301,400)	(△ 300,000)	
受取利息等	1,400	301,400	△ 300,000	
経常収益計	109,109,475	176,168,400	△ 67,058,925	
(2) 経常費用				
① 事業費	(105,428,241)	(171,061,751)	(△ 65,633,510)	
給料手当	5,940,000	4,160,000	1,780,000	
法定福利費	1,440,000	700,000	740,000	
中退共掛金	160,000	0	160,000	
事務所借料	2,164,176	2,136,456	27,720	
会場費	34,829,255	75,564,006	△ 40,734,751	
旅費・通信交通費	6,679,653	9,410,450	△ 2,730,797	
印刷費	7,972,982	11,301,400	△ 3,328,418	
会議費	5,602,140	8,941,125	△ 3,338,985	
謝金・その他	8,804,575	13,477,411	△ 4,672,836	
懇親会費	3,152,265	6,145,000	△ 2,992,735	
編集刊行費	12,500,000	11,400,000	1,100,000	
国際情報発信強化費	6,500,000	6,500,000	0	
学術事業協力費	360,000	350,000	10,000	
副 賞	1,250,000	1,800,000	△ 550,000	
消耗品費	100,000	100,000	0	
業務委託費	6,910,455	17,245,743	△ 10,335,288	
減価償却費	662,740	1,030,160	△ 367,420	
租税公課	400,000	800,000	△ 400,000	

(単位:円)

	令和5年度予算額	令和4年度予算額	増減	備考
② 管理費	(16,197,133)	(18,114,728)	(△ 1,917,595)	
給料手当	6,060,000	4,340,000	1,720,000	
法定福利費	360,000	300,000	60,000	
中退共掛金	40,000	120,000	△ 80,000	
事務所借料	927,504	915,624	11,880	
旅費・通信交通費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
印刷費	300,000	300,000	0	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	348,504	76,704	271,800	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	2,000,000	1,600,000	400,000	
慶弔費	500,000	500,000	0	
業務委託費	1,690,000	5,040,000	△ 3,350,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	51,125	302,400	△ 251,275	
選挙費	0	200,000	△ 200,000	
雑費	200,000	200,000	0	
経常費用計	121,625,374	189,176,479	△ 67,551,105	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,515,899	△ 13,008,079	492,180	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 12,515,899	△ 13,008,079	492,180	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 12,515,899	△ 13,008,079	492,180	
一般正味財産期首残高	170,945,248	183,953,327	△ 13,008,079	
一般正味財産期末残高	158,429,349	170,945,248	△ 12,515,899	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金				
受取補助金	6,500,000	6,500,000	0	
② 受取寄付金				
受取寄付金	0	0	0	
③ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 7,450,450	△ 6,500,000	△ 950,450	
当期指定正味財産増減額	△ 1,390,000	△ 10,607,950	9,217,950	
指定正味財産期首残高	950,450	11,558,400	△ 10,607,950	
指定正味財産期末残高	0	950,450	△ 950,450	
III 正味財産期末残高	158,429,349	171,895,698	△ 13,466,349	

令和5年度収支予算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共通	小計	他1 エデュケーター			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
① 特定資産運用益	0	0	0	0	196,500	196,500	0	196,500		393,000
基金受取利息					196,500	196,500		196,500		393,000
② 受取会費	0	0	0	0	20,275,000	20,275,000	0	20,275,000		40,550,000
1 一般会員会費					8,250,000	8,250,000		8,250,000		16,500,000
2 学術評議員会費					8,500,000	8,500,000		8,500,000		17,000,000
3 賛助会員会費					3,525,000	3,525,000		3,525,000		7,050,000
③ 事業収益	46,447,800	4,445,000	0	0	0	50,892,800	0	0		50,892,800
1 学術集会費収益	43,507,800	0	0	0	0	43,507,800	0	0		43,507,800
参加登録費	19,868,000					19,868,000				19,868,000
器械展示料	11,174,800					11,174,800				11,174,800
予稿集広告料	2,345,000					2,345,000				2,345,000
懇親会費	10,120,000					10,120,000				10,120,000
ランチオンセミナー										
2 購読料	0	455,000	0	0	0	455,000	0	0		455,000
購読料		455,000				455,000				455,000
3 論文掲載料	2,940,000	2,400,000	0	0	0	5,340,000	0	0		5,340,000
和文誌掲載料		2,400,000				2,400,000				2,400,000
英文誌掲載料						0				0
演題登録料	2,940,000					2,940,000				2,940,000
4 論文別刷料	0	740,000	0	0	0	740,000	0	0		740,000
別刷料		140,000				140,000				140,000
著作権等使用料		600,000				600,000				600,000
5 広告掲載料	0	850,000	0	0	0	850,000		0		850,000
広告掲載料		850,000				850,000				850,000
④ 薬理学エデュケーター申請	0	0	0	0	0	0	300,000	0		300,000
申請料収益						0	300,000			300,000
⑤ 受取補助金等	5,650,000	6,500,000	0	0	0	12,150,000	0	0		12,150,000
1 指定正味財産からの振替額	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000				6,500,000
2 学術集会補助金	5,650,000	0	0	0	0	5,650,000				5,650,000
⑥ 受取寄付金	4,822,275	0	0	0	0	4,822,275	0	0		4,822,275
1 指定正味財産からの振替額	950,450	0	0	0	0	950,450				950,450
学術集会賛助金	3,871,825	0	0	0	0	3,871,825				3,871,825
⑦ 雑収益	0	0	0	0	700	700	0	700		1,400
受取利息等	0	0	0	0	700	700		700		1,400
経常収益計	56,920,075	10,945,000	0	0	20,472,200	88,337,275	300,000	20,472,200		109,109,475
(2) 経常費用						0				
① 事業費	76,148,587	21,304,168	3,261,018	2,829,584	400,000	103,943,357	1,484,884	0	0	105,428,241
1 給料手当	4,510,000	250,000	680,000	250,000		5,690,000	250,000			5,940,000
2 法定福利費	1,080,000	90,000	90,000	90,000		1,350,000	90,000			1,440,000
3 中退共掛金	120,000	10,000	10,000	10,000		150,000	10,000			160,000
4 事務所借料	1,236,672	309,168	309,168	154,584		2,009,592	154,584			2,164,176
5 会場費	34,729,255	100,000				34,829,255				34,829,255
6 旅費・通信交通費	5,079,653	200,000		990,000	400,000	6,669,653	10,000			6,679,653
7 印刷費	7,972,982					7,972,982				7,972,982
8 会議費	5,252,140	200,000	150,000			5,602,140				5,602,140
9 謝金・その他	7,087,725		556,850	760,000		8,404,575	400,000			8,804,575
10 懇親会費	3,152,265					3,152,265				3,152,265
11 編集・刊行費		12,500,000				12,500,000				12,500,000

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計	他1 エデュケーター			
12 国際情報発信強化費		6,500,000				6,500,000				6,500,000
13 学術事業協力費				360,000		360,000				360,000
14 副賞			1,250,000			1,250,000				1,250,000
15 消耗品費		100,000				100,000				100,000
16 業務委託費	5,220,455	1,045,000	215,000	215,000		6,695,455	215,000			6,910,455
17 減価償却費	307,440					307,440	355,300			662,740
18 租税公課	400,000					400,000				400,000
② 管理費								16,197,133	0	16,197,133
1 給料手当								6,060,000		6,060,000
2 法定福利費								360,000		360,000
3 中退共掛金								40,000		40,000
4 事務所借料								927,504		927,504
5 旅費・通信交通費								2,000,000		2,000,000
6 印刷費								300,000		300,000
7 会議費								700,000		700,000
8 リース料								348,504		348,504
9 消耗品費								1,000,000		1,000,000
10 支払手数料								2,000,000		2,000,000
11 慶弔費								500,000		500,000
12 業務委託費								1,690,000		1,690,000
13 租税公課								20,000		20,000
14 減価償却費								51,125		51,125
15 雑費								200,000		200,000
経常費用計	76,148,587	21,304,168	3,261,018	2,829,584	400,000	103,943,357	1,484,884	16,197,133	0	121,625,374
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	△ 15,606,082	△ 1,184,884	4,275,067	0	△ 12,515,899
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	△ 15,606,082	△ 1,184,884	4,275,067	0	△ 12,515,899
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
中科目別記載										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
中科目別記載										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	△ 15,606,082	△ 1,184,884	4,275,067	0	△ 12,515,899
他会計振替額							0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	△ 15,606,082	△ 1,184,884	4,275,067	0	△ 12,515,899
一般正味財産期首残高						53,132,281	2,698,226	115,114,741	0	170,945,248
一般正味財産期末残高	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	37,526,199	1,513,342	119,389,808	0	158,429,349
II 指定正味財産増減の部										
受取補助金		6,500,000				6,500,000		0		6,500,000
受取寄付金						0				0
一般正味財産への振替額	△ 950,450	△ 6,500,000				△ 7,450,450		0		△ 7,450,450
当期指定正味財産増減額	△ 950,450	0	0	0	0	△ 950,450		0		△ 950,450
指定正味財産期首残高	950,450	0	0	0	0	950,450	0	0		950,450
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0		0
III 正味財産期末残高	△ 19,228,512	△ 10,359,168	△ 3,261,018	△ 2,829,584	20,072,200	37,526,199	1,513,342	119,389,808	0	158,429,349

V. 名誉会員候補者一覧（令和5年度）

名誉会員推薦規定第2条第1項第1号b)及び同運用基準第2項第1号、第2号に該当すると判断し、次の2氏が令和4年度臨時総会において、承認された。

令和5年4月1日現在、氏名五十音順

氏名 (所属)	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
谷内 一彦 (東北大学医学部)	66歳 35年	広義の薬理学研究（分子薬理学、応用薬理学、精神神経薬理学、臨床薬理学、神経科学、放射性医薬品化学など）で大きな業績を挙げている。	理事長 理事 10年 委員 23年 年会長
渡邊 裕司 (浜松医科大学医学部)	65歳 21年	薬理的には血管内皮細胞内Ca ²⁺ 濃度調節機構の解明と内皮機能の変化について研究を行い、臨床薬理的には肺高血圧症の治療薬開発や個別化薬物治療、臨床試験体制整備に取り組んだ。	理事 2年 委員 8年

名誉会員推薦規定第2条第2号及び同運用基準第3項第2号に該当すると判断し、次の1氏が令和4年度臨時総会において、承認された。

令和5年4月1日現在、氏名五十音順

氏名 (所属)	年齢	薬理学における学術上の功績	本会の発展への功績
満屋 裕明 (国立国際医療研究センター)	72歳	米国NIH在籍中の1985年に世界で初めてエイズ治療薬AZTを開発し、以後もダルナビル(2006)等の治療薬を継続して開発した。	2022年3月の第95回年会、同年12月の第96回年会において基調講演を行い、会員の創薬研究への関心と意欲を高めた。

「名誉会員推薦規定」(抜粋)

(資格)

第2条 名誉会員として推薦することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本会の正会員として20年以上在籍し、年齢65才以上の、役員または常置委員在任中ではない者で、かつ次の事項のいずれかに該当する者
 - a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者
 - b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者
- (2) 非会員のうち、薬理学における学術上の功績が大であり、かつ特に本会の発展に功績が顕著である者
- 2 前項第1号の正会員歴の算定にあたり、理事会は特別の考慮を払うことができる。
- 3 第1項第1号にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる。

「名誉会員推薦規定運用基準」(抜粋)

2. 名誉会員推薦規定第2条第1号b)の「本会の発展に功績が顕著である者」は、以下の各号のいずれかの者とする。
 - (1) 理事、監事又は年会長を経験した者
 - (2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算10年以上経験した者
3. 名誉会員推薦規定第2条第2号については、以下のとおりとする。
 - (1) 「薬理学における学術上の功績が大である者」は、学士院賞に相当する以上の賞の受賞者又は理事会がそれと同等以上の学術上の功績があると認めた者とする。
 - (2) 「特に本会の発展に功績が顕著である者」は、本会の学術集会で特別講演を行った者、Journal of Pharmacological Sciencesに極めて価値のある総説を寄稿した者、Journal of Pharmacological SciencesのRegional Editorとして貢献した者、又は理事会がそれらと同等以上の功績があると認めた者とする。

VI. 永年会員候補者一覧（令和5年度）

理事会は、永年会員推薦規定第2条及び同運用基準第1項に該当すると判断し、次の10氏を推薦いたします。
令和5年4月1日現在、氏名五十音順

氏名／所属歴	年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
平藤 雅彦 医療創生大学	70歳	38年		第1号
前田 定秋 摂南大学	70歳	33年		第1号
高野 一夫 東京有明医療大学	75歳	-	50年	第2号
土田 勝晴 同志社女子大学	73歳	-	50年	第2号
中川 秀幸 四国大学	72歳	-	50年	第2号
仲澤 幹雄 新潟大学	74歳	-	50年	第2号
本多 秀雄 東京医療保健大学	72歳	-	50年	第2号
松岡 隆 (株)オールコーポレーション	75歳	-	50年	第2号
山本 隆一 九州保健福祉大学	73歳	-	50年	第2号
渡辺 卓司 (株)ペプチド研究所	73歳	-	50年	第2号

永年会員推薦規定(抜粋)

第2条 永年会員として推薦することができる者は、年齢70才以上であり、かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする。

永年会員推薦規定運用基準(抜粋)

- 永年会員推薦規定第2条に基づき、理事会が永年会員に推薦する者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
 - 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり、かつ、部会長、常置委員会委員、特別委員会委員、Journal of Pharmacological SciencesのEditor又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者
 - 本会の正会員として50年以上在籍した者

VII. 部会選出新常置委員会委員一覽

2024, 2025 年度
部会選出新常置委員一覽

(委員は五十音順, 次点者は得票順)

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
泉 剛	安達 一典	吾郷由希夫	岩本 隆宏
小原祐太郎	安西 尚彦	池田 康将	齊藤 源顕
吉川 雄朗	池谷 裕二	石澤 啓介	西 昭徳
久米 利明	諫田 泰成	大矢 進	西田 基宏
南 雅文	小泉 修一	北市 清幸	柳田 俊彦
守屋 孝洋	小林 真之	高井 真司	山口 拓
	三枝 禎	富田 修平	
	坂本 謙司	西村 有平	
	佐藤 洋美	西山 成	
	高原 章	森岡 徳光	
	成田 年	山村 寿男	
	森本 達也	吉栖 正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
若森 実	辻 稔	喜多紗斗美	筒井 正人
中山 恒	赤羽 悟美	益岡 尚由	首藤 剛
平 英一	田辺 光男	野村 洋	武谷 立
岡村 信行	上園 保仁	座間味義人	香月 博志
新田 淳美	黒川 洵子	石井 優	高橋 富美
	藤田 朋恵	大喜多 守	塩田 倫史
	斎藤 顕宜	人見 浩史	
	廣瀬 謙造	金田 勝幸	

Ⅷ. 規則の制定・変更

変 更

定款

現 行	変 更
<p>第1章 総 則 (招 集) 第18条 総会は、理事長が招集する。 2 総会を招集するときは、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を記載した書面をもって開催日の2週間前までに会員に通知しなければならない。</p>	<p>第1章 総 則 (招 集) 第18条 総会は、理事長が招集する。 2 総会を招集するときは、その会議に付議すべき事項、日時及び場所並びに議決権の行使について参考となるべき事項を記載した書類を開催日の2週間前までに会員に電子提供措置をもって通知しなければならない。</p> <p>附 則 5 第18条の変更は、2022年11月12日より施行する。</p>

定款施行細則

現 行	変 更
<p>第2章 役員及び理事会 第9条 本会の役員は、総会で選任する。学術評議員会及び役員選考委員会は、総会に提示する役員候補者を選出する。 2 学術評議員会が選出する(以下、学術評議員会選出という)役員候補者は、学術評議員が本定款施行細則(以下、細則という)第11条及び第12条に規定する学術評議員会選出理事候補者(以下、理事候補者という)及び学術評議員会選出監事候補者(以下、監事候補者という)のうちからこれを選出する。</p> <p>第10条 学術評議員会選出理事の定数は、北部会2名、関東部会5名、近畿部会5名、西南部会2名とする。 2 学術評議員会選出理事が任期中に他部会に転出したときは、<u>転出後の部会で学術評議員としての資格を有する。ただし、部会を転出した後も、選出された部会の理事として職務を行う。</u></p> <p>第13条 理事長は、理事候補者及び監事候補者名簿を作成し、<u>役員候補者選出学術評議員会の開催1月前までに、これを学術評議員に公示する。</u></p> <p>第14条 学術評議員会選出役員候補者は、役員候補者選出学術評議員会において、理事にあつては細則第10条に定める各地方部会の理事定数の連記無記名投票により、監事にあつては定数2名の連記無記名投票により選出する。</p>	<p>第2章 役員及び理事会 第9条 2 学術評議員会が選出する(以下、学術評議員会選出という)役員候補者は、学術評議員が本定款施行細則(以下、細則という)第11条及び第12条に規定する学術評議員会選出理事候補者(以下、理事候補者という)及び学術評議員会選出監事候補者(以下、監事候補者という)のうちから、<u>第14条に規定する選挙によりこれを選出する。</u></p> <p>第10条 2 学術評議員会選出理事が第14条に規定する選挙の後に他部会に転出したときは、選出された部会の理事として職務を行う。<u>ただし、転出後の部会で学術評議員としての資格を有する。</u></p> <p>第13条 理事長は、理事候補者及び監事候補者名簿を作成し、<u>第14条に規定する選挙の選挙公示日の1月前までに、これを学術評議員に公示する。</u></p> <p>第14条 学術評議員会選出役員候補者は、役員候補者選出学術評議員会において、理事にあつては細則第10条に定める各地方部会の理事定数の連記無記名投票により、監事にあつては定数2名の連記無記名投票による選挙(以下、役員選挙という)により選出する。</p> <p><u>第18条 第9条第1項により選出された理事のうち、各部会理事1名を部会代表理事とする。</u> <u>2 部会代表理事は各部会の理事の互選により決定し、理事長に届け出るものとする。</u> <u>3 部会代表理事は、部会の窓口として理事会その他と連携を図る。</u></p> <p>(以下、条数繰り下げ)</p> <p>第6章 委員会及び委員 第40条 常置委員会の委員は、委員長となる委員6名を理事</p>
<p>第6章 委員会及び委員 第40条 常置委員会の委員は、委員長となる委員6名を理事</p>	<p>第6章 委員会及び委員 第41条</p>

<p>会において理事中より、36名を次のとおり各部会所属の学術評議員の互選によって選出し、理事長が委嘱する。 北部会6名、関東部会12名、近畿部会12名、西南部会6名。</p> <p>第10章 事務局 第59条 事務局には首席事務員を置く。首席事務員は理事長が任命する。</p>	<p>5 <u>委員は特別委員会を分担する場合がある。</u></p> <p>第10章 事務局 第60条 事務局には首席事務員を置く。首席事務員は理事長が任命する。</p> <p>2 <u>事務局に顧問およびアドバイザーを置くことができる。顧問およびアドバイザーは理事長が任命する。</u></p> <p>附 則 本細則は、令和4年4月23日より施行する。 附 則 本細則は、令和4年7月23日より施行する。</p>
---	--

名誉会員推薦規定・同運用基準

現 行	変 更
<p>名誉会員推薦規定運用基準 2. (2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算10年以上経験した者</p> <p>委員歴の算定に当たり、次の事項はいずれも委員歴2年と数える。 a) 部会長及び副部会長経験者</p>	<p>名誉会員推薦規定運用基準 2. (2) 常置委員会及び特別委員会 <u>(定款施行細則第41条2項の特別委員会の他に、理事会が必要性を認め、設置を承認した特別委員会を含む)</u>の委員等を通算10年以上経験した者</p> <p>委員歴の算定に当たり、次の事項はいずれも委員歴2年と数える。 a) <u>副年会長</u>、部会長及び副部会長経験者</p> <p>附 則 本基準は令和4年7月23日より施行する。</p>

永年会員推薦規定・同運用基準

現 行	変 更
<p>永年会員推薦規定運用基準 1. (1) 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり、かつ、部会長、副部会長、常置委員会委員、特別委員会委員、Journal of Pharmacological SciencesのEditor又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者</p>	<p>永年会員推薦規定運用基準 1. (1) 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり、かつ、<u>副年会長</u>、部会長、副部会長、常置委員会委員、特別委員会 <u>(定款施行細則第42条2項の特別委員会の他に、理事会が必要性を認め、設置を承認した特別委員会を含む)</u>委員、Journal of Pharmacological SciencesのEditor又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者</p> <p>附 則 本基準は令和4年7月23日より施行する。</p>

常置委員会規定

現 行	変 更
	<p>附 則 本規定別表「所管事項及び特記事項」は令和4年7月23日より施行する。</p>

役員等選挙実施規定

現 行	変 更
<p>第1章 総 則</p>	<p>第1章 総 則 <u>(選挙の管理)</u> 第1. 2条 役員及び常置委員会委員の選挙に当たり、役員・常置委員会選挙管理委員会（以下「管理委員会」という）を置く。 2 管理委員会委員長は総務委員長が兼務し、管理委員会委員は委員長が指名する。 3 管理委員会は、投票有権者及び被選挙権者の確定、開票、投票の有効性、選挙結果の報告等、選挙に関するすべての</p>

<p>(役員選挙の手順、<u>推薦制・二段階選挙</u>)</p> <p>第2条 役員選挙は、以下の手順により行う。</p> <p>2 学術評議員は、細則第11条及び第12条に基づき、定められた数の役員候補者を<u>あらかじめ推薦された者の中から部会ごとに選出する。</u></p> <p>4 学術評議員は、細則第14条により<u>学術評議員会において役員を役員候補者のうちから選出する。</u></p> <p>5 前項の役員選挙は、<u>学術評議員会出席学術評議員の投票により行うものとする。</u></p> <p>(選挙開票の管理)</p> <p>第4条 役員選挙の開票は年会長が、役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票は部会長が、それぞれ管理する。</p> <p>2 開票は複数の立会人のもとに行う。役員選挙の開票立会人は<u>学術評議員会において選任する。</u>役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票立会人は、原則として<u>総務委員長</u>に加え部会長又は当該部会の<u>総務委員会委員</u>の計2名とする。</p> <p>(被選挙権者の確定及び投票)</p> <p>第7条 役員候補者被選挙権者の確定は、理事長の責任において行う。</p> <p>2 理事長は、部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し、選挙の年の11月15日(当日が休日のときは翌業務日)に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。</p> <p>第2章 役員候補者選挙</p> <p>(被選挙権者推薦制)</p> <p>第5条 役員候補者は、その部会所属の2名以上の学術評議員により当該部会の役員候補者として推薦された者を被選挙権者とし、その中から選出するものとする。</p> <p>(被推薦権有資格者)</p> <p>第6条 <u>前条の被推薦権有資格者は、定款第28条及び細則第9条に基づき、役員候補者選挙を実施する年(以下「選挙の年」という)の10月31日現在当該部会に所属し、かつ役員就任年の4月1日において満65才未満の学術評議員から、連続2期を超えて役員となる者を除いた者とする。</u></p> <p>(推薦権有資格者)</p> <p>第7条 <u>第5条に基づき役員候補者被選挙権者を推薦できる者は、推薦投票公示日の前月1日において当該部会に所属する学術評議員とする。</u></p> <p>(推薦の手続き)</p> <p>第8条 <u>理事長は、選挙の年の10月に部会ごとの被推薦権有資格者の名簿を公示する。ただし、第6条に基づき、公示以後同年10月31日までに部会を移った者は、公示された名簿にかかわらず、転入後の部会の所属とする。</u></p> <p>2 <u>推薦は、前項の公示以後同年10月31日までに、所定の書式により本会事務局に届けるものとする。</u></p> <p>3 <u>自薦は差し支えないものとする。</u></p> <p>4 <u>学術評議員は、役員候補者の被選挙権者を推薦するに当たって、当該部会の理事定数と監事候補者定数の和(北部会3、関東部会7、近畿部会7、西南部会3)とする。</u></p>	<p><u>管理を行う。</u></p> <p>(役員選挙の手順、二段階選挙)</p> <p>第2条 役員選挙は、以下の手順により行う。</p> <p>2 学術評議員は、細則第11条及び第12条に基づき、定められた数の役員候補者を<u>被選挙権者の中から部会ごとに選出し、管理委員会が確認する。</u></p> <p>4 学術評議員は、細則第14条により役員を役員候補者のうちから選出する。</p> <p>5 前項の役員選挙は、<u>投票者要件に該当する学術評議員の電子投票により行うものとする。</u></p> <p>(選挙開票の管理)</p> <p>第4条</p> <p>2 開票は複数の立会人のもとに行う。役員選挙の開票立会人は<u>管理委員長</u>が選任する。役員候補者及び常置委員会委員選挙の開票立会人は、原則として<u>管理委員長</u>に加え部会長又は当該部会の<u>管理委員</u>の計2名とする。</p> <p>(被選挙権者の確定及び投票)</p> <p>第7条 役員候補者被選挙権者の確定は、理事長の責任において行う。</p> <p>2 理事長は、部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し、<u>管理委員会を確認した後に、</u>選挙の年の11月15日(当日が休日のときは翌業務日)に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。</p> <p>第2章 役員候補者選挙</p> <p>(被選挙権者推薦制)</p> <p>第5条 (削除)</p> <p>(被選挙権有資格者)</p> <p>第5条 <u>被選挙権有資格者は、定款第28条及び細則第9条に基づき、役員候補者選挙を実施する年(以下「選挙の年」という)の役員候補者選挙の公示日の前月1日において当該部会に所属し、かつ役員就任年の4月1日において満65才未満の学術評議員から、連続2期を超えて役員となる者を除いた者とする。</u></p> <p>(推薦権有資格者)</p> <p>第7条 (削除)</p> <p>(推薦の手続き)</p> <p>第8条 (削除)</p>
--	--

<p>(投票有権者) 第9条 役員候補者選挙の投票有権者は、選挙の年の11月15日現在当該部会に所属する学術評議員とする。</p> <p>(被選挙権者の確定及び投票) 第10条 役員候補者被選挙権者の確定は、理事長の責任において行う。 2 理事長は、部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し、選挙の年の11月15日(当日が休日のときは翌業務日)に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。 3 有効に推薦された者であっても、同年11月15日までに部会から転出した者は、被選挙権者名簿に含めない。</p> <p>第3章 常置委員会委員選挙 (被選挙権者) 第11条 常置委員会委員の被選挙権者は、細則第40条に基づき、選挙の年の11月15日現在当該部会に所属し、かつ就任年の4月1日において満65才未満の学術評議員とする。</p> <p>(投票有権者) 第12条 常置委員会委員選挙の投票有権者は、第9条の役員候補者選挙の投票有権者と同じとする。 (被選挙権者の確定及び投票) 第13条 常置委員会委員被選挙権者の確定は、理事長の責任において行う。 2 理事長は、部会ごとに常置委員会委員被選挙権者名簿を作成し、選挙の年の11月15日(当日が休日のときは翌業務日)に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。</p> <p>第4章 役員候補者選挙及び常置委員会委員選挙の投票及び開票 (投票方法) 第14条 役員候補者の投票は、それぞれ選出すべき定数の連記(定数が1の場合は単記)無記名投票により行う。常置委員会委員の投票は、細則第40条第1項に定める部会定数の半数の連記無記名投票により行う。 2 投票は、それぞれ別に定める方法により行うものとする。 (投票の締切) 第15条 電子投票の締切は、選挙の年の11月30日とする。 (連記数と投票の有効性) 第16条 規定数以内を単記又は連記した投票はすべて有効とする。 (開票時の問題処理) 第17条 投票に関して不明な場合は、開票立会人の判断による。 (同数得票者間の順位) 第18条 同数得票者について順位をつける必要がある場合は、年少者を上位とする。ただし、常置委員会委員選挙においては、女性、年少者の順に上位とする。 (理事候補者と監事候補者の同一人重複の排除) 第19条 同一人は理事、監事いずれか一方だけの候補者と定め、両者の候補者とはしない。</p> <p>第5章 部会選挙結果の発表及び報告 (選挙結果の発表)</p>	<p>(投票有権者) 第6条 役員候補者選挙の投票有権者は、役員候補者選挙の公示日の前月1日において当該部会に所属する学術評議員とする。 (被選挙権者の確定及び投票) 第7条 役員候補者被選挙権者の確定は、理事長の責任において行う。 2 理事長は、部会ごとに役員候補者被選挙権者名簿を作成し、役員候補者選挙の公示日に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。</p> <p>3 (削除)</p> <p>第3章 常置委員会委員選挙 (被選挙権者) 第8条 常置委員会委員の被選挙権者は、細則第40条に基づき、常置委員会委員選挙の公示日の前月1日において当該部会に所属し、かつ就任年の4月1日において満65才未満の学術評議員とする。 (投票有権者) 第9条 常置委員会委員選挙の投票有権者は、第6条の役員候補者選挙の投票有権者と同じとする。 (被選挙権者の確定及び投票) 第10条 2 理事長は、部会ごとに常置委員会委員被選挙権者名簿を作成し、常置委員会委員選挙の公示日に投票フォームと共に当該部会の投票有権者に公示(公開)する。</p> <p>第4章 役員候補者選挙及び常置委員会委員選挙の投票及び開票 (投票方法) 第11条 (同左) (投票の締切) 第12条 電子投票の締切は、選挙公示日の1月後とする。 (連記数と投票の有効性) 第13条 (同左) (開票時の問題処理) 第14条 (同左) (同数得票者間の順位) 第15条 (同左) (理事候補者と監事候補者の同一人重複の排除) 第16条 (同左)</p> <p>第5章 部会選挙結果の発表及び報告 (選挙結果の発表)</p>
--	---

<p>第20条 部会長は、選挙の結果を当該部会ごとに通知する。 (選挙結果の報告)</p> <p>第21条 部会長は、役員候補者選挙及び常置委員会委員選挙結果について、得票順に得票数を附記した全得票者氏名並びに最終的な理事候補者及び監事候補者氏名（次点者及び次々点者を含む）を理事長に報告する。</p> <p>第6章 役員選挙 (役員候補者氏名の公告)</p> <p>第22条 理事長は、細則第13条による役員候補者氏名の公告に際して、理事候補者は選出部会別に、監事候補者は一括して、それぞれ五十音順に記し、順位及び得票数は附記しない。次点者及び次々点者の氏名は公告しない。</p> <p>2 選挙当日までに役員候補者として選出され部会から転出した者及び役員就任時までに転出することが予定されている者は、選挙結果にかかわらず役員候補者から除き、次点者を繰り上げるものとする。 (投票有権者)</p> <p>第23条 役員選挙の投票有権者は、<u>投票当日学術評議員であり、かつ選挙開始の時点における学術評議員会の出席者とする。</u> (投票方法)</p> <p>第24条 役員選挙は、それぞれ選出すべき定数の連記無記名投票により行う。 (連記数と投票の有効性、開票時の問題処理、同数得票者間の順位)</p> <p>第25条 役員選挙における連記数と投票の有効性、開票時の問題処理、同数得票者間の順位については、それぞれ第16条、第17条、第18条の定めるところによる。 (選挙結果の発表)</p> <p>第26条 年会長は、役員選挙の結果について、当選者に加えて次点者、次々点者の2名までの順位と得票数を発表する。 (選挙結果の報告)</p> <p>第27条 年会長は、全得票者氏名を得票順に得票数を附記して理事長に報告する。 (細則)</p> <p>第28条 本規定の実施に関し必要な細則は、別に定める。</p>	<p>第17条 (同左) (選挙結果の報告)</p> <p>第18条 (同左)</p> <p>第6章 役員選挙 (役員候補者氏名の公告)</p> <p>第19条 1 (同左)</p> <p>2 役員候補者として選出され<u>選挙公示日までに部会から転出した者及び役員就任時までに転出することが予定されている者は、選挙結果にかかわらず役員候補者から除き、次点者を繰り上げるものとする。</u> (投票有権者)</p> <p>第20条 役員選挙の投票有権者は、<u>投票者要件に該当する学術評議員とする。</u> (投票方法)</p> <p>第21条 (同左) (連記数と投票の有効性、開票時の問題処理、同数得票者間の順位)</p> <p>第22条 役員選挙における連記数と投票の有効性、開票時の問題処理、同数得票者間の順位については、それぞれ第13条、第14条、第15条の定めるところによる。 (選挙結果の発表)</p> <p>第23条 (同左) (選挙結果の報告)</p> <p>第24条 (同左) (細則)</p> <p>第25条 (同左)</p> <p>附則 本規定は令和4年7月23日より施行する。 附則 本規定は令和4年11月29日より施行する。</p>
--	---

薬理学振興助成事業選考規定

現 行	変 更
<p>薬理学振興助成事業選考規定運用細則</p> <p>1. 薬理学振興助成事業規定に定める事業（以下「助成事業」という）のうち、<u>新薬理学セミナーの事業開催は所管の研究推進委員会が応募し、世話人を指名する。</u>公開講座の開催は所管の広報委員会が応募し、<u>世話人を指名する。</u>ダイバーシティ推進に関わる企画は所管の<u>企画教育委員会</u>が応募する。</p>	<p>薬理学振興助成事業選考規定運用細則</p> <p>1. 薬理学振興助成事業規定に定める事業（以下「助成事業」という）のうち、<u>次世代薬理学セミナーの事業開催は所管の企画教育委員会が応募する。</u>公開講座の開催は所管の広報委員会が応募し、<u>担当部会を選定する。</u>ダイバーシティ推進に関わる企画は所管の<u>将来構想委員会</u>が応募する。</p> <p>附則 本細則は令和4年11月29日より施行する。</p>

共催協賛後援規則・同運用基準

現 行	変 更
<p>(共催の決定等) 第2条 共催の決定は、理事会の審議を経なければならない。</p> <p>共催・協賛・後援規則運用基準 4. 他団体主催の学術集会の国会による協賛又は後援については、以下の各号のすべてに該当するものは、承認する。 5. 前項の第1号は協賛又は後援承認の必須条件とする。第1号のみ、第1号及び第2号のみ、又は第1号及び第3号のみに該当するものは、所掌委員会で承認の可否を審査する。</p>	<p>(共催の決定等) 第2条 共催の決定は、<u>所掌委員会の答申に基づき</u>、理事会の審議を経なければならない。</p> <p><u>附 則 本細則は令和4年7月23日より施行する。</u></p> <p>共催・協賛・後援規則運用基準 4. 他団体主催の学術集会の国会による協賛又は後援については、以下の各号のすべてに該当するものは、<u>理事長名で承認する。</u> 5. 前項の第1号は協賛又は後援承認の必須条件とする。第1号のみ、第1号及び第2号のみ、又は第1号及び第3号のみに該当するものは、<u>所掌委員会で承認の可否を審査し、所掌委員会の答申に基づき、理事長名で承認する。</u></p> <p><u>附 則 本基準は令和4年7月23日より施行する。</u></p>

年会会計運用規則

現 行	変 更
<p>別表（講師謝金の基準） いずれも下表の金額を基準とし、国会会員には原則支給しない。 金 額 1) ノーベル賞及び同等の賞の受賞者 300,000円（税抜額） 2) 1) 以外の講演者 <u>100,000円</u>（税抜額）</p>	<p>別表（講師謝金の基準） いずれも下表の金額を基準とし、国会会員には原則支給しない。 金 額 1) ノーベル賞及び同等の賞の受賞者 300,000円（税抜額） 2) 1) 以外の講演者 <u>30,000円</u>（税抜額）</p> <p><u>附 則 本細則は、令和4年7月23日より施行する。</u></p>

慶弔に関する取扱規則

現 行	変 更
<p>第4条 3 追悼文は、原則として日本薬理学会ホームページに掲載する。</p>	<p>第4条 <u>3 訃報は、原則として名誉会員及び学術評議員へのメール配信により行う。</u> 4 追悼文は、原則として日本薬理学雑誌に掲載する。</p> <p><u>附 則 本基準は令和4年7月23日より施行する。</u></p>

新たな特別委員会の設置に伴い、委員会間で重複している事項や実情に即していない項目を整理した。
常置委員会所管事項（別表（第2条関係））

委員会名	所管事項 及び 特記事項 <u>（アンダーラインは委員長の職務）</u>
総務委員会	(1) 本会の諸規則の整備 (2) <u>理事長の補佐</u> (3) 会員管理（会員の入退会，名誉会員及び永年会員の推薦，役員，常置委員会委員及び代議員選挙に関わる管理を含む） (4) COI 委員会，倫理委員会，不服申立て委員会の会務・運営 (5) 本会の総務関連事項 (6) 事務局業務及び事務局職員の掌握・管理
財務委員会	(1) 本会の財務に関する基本計画の策定 (2) <u>理事長の補佐</u> (3) 予算案の編成及び予算の執行 (4) 決算報告書案の作成 (5) 賛助会費及び寄付金の募集・受入 (6) 一般競争入札の計画・実施 (7) 基金の運用 (8) その他の財務業務及び会計実務 特記事項： 会計処理規則運用細則により，各委員会委員長，各学会集會会長及び各企画責任者が，各々の予算執行責任者となる。財務委員会は，執行責任者からの報告により，収支決算を掌握する。
編集委員会	(1) Journal of Pharmacological Sciences（以下「英文誌」という）の編集方針（国際情報発信力強化，IF 値上昇に向けての取り組み）等基本計画の策定 (2) <u>理事長の補佐</u> (3) 英文誌掲載論文及び諸原稿の審査 (4) 優秀論文賞選考 (5) 科研費の申請計画 (6) 英文誌編集・刊行業務の掌握・管理 (7) 英文誌編集・刊行に関わるその他の事項（著作権処理を含む）
研究推進委員会	(1) 薬理学研究の推進に向けた企画の立案と実行 (2) 省庁・日本学術会議・日本医学会連合等の事業への対応および申請 (3) 研究推進のための研究集會の計画と実施（研究推進委員会企画シンポジウム等） (4) 若手会員のキャリア開発の支援 (5) 産学共同研究，産学連携の推進 (6) その他本会の研究推進活動との連携に関わる事項
広報委員会	(1) 会員並びに社会への日本薬理学雑誌（以下「会誌」という）・ホームページ等を通じての広報活動の基本計画の策定 (2) 会誌掲載諸原稿の審査 (3) 会誌編集・刊行業務の掌握・管理 (4) 会誌編集・刊行に関わるその他の事項（著作権処理を含む） (5) 本会のホームページ等による広報活動の管理 (6) 本会の協賛・後援の審査 (7) 公開講座開催による正しい薬物の知識等の普及，啓発 (8) その他本会の広報活動に関わる事項
企画教育委員会	(1) 教育に関連した事項についての企画，調査，検討及び提言 (2) 薬理学エデュケーター申請書の審査 (3) 新学術評議員候補者の選定 (4) 次世代の会の支援，育成 (5) 看護薬理カンファレンスの企画・運営

特別委員会所管事項

委員会名等	所管事項 及び 特記事項
年会学術企画委員会	(1) 年会プログラム編成の基本方針の策定 (2) 特別講演, シンポジウム等委員会案の企画 (3) 共催の審査 (4) その他年会の学術活動に関わる事項の検討 (5) 年会学術集会における関連学術団体との交流の検討 特記事項： 共催の申入れについて審査を担当するが, 継続的な交流は理事会決定による。
賞等選考委員会	(1) 学術奨励賞の選考, 審査基準の策定 (2) 薬理学振興助成事業の選考 (3) 本会が推薦する各種助成団体等への応募者の選考 特記事項： 薬理学振興助成事業への助成額は, 財務委員会の検討を経て決定する。
江橋賞選考委員会	(1) 江橋賞の選考
国際対応委員会	(1) IUPHAR, 日中, 日韓他各国の薬理学者との連携・協力の推進 (2) 国際会議開催準備に関わる日本側の渉外担当
将来構想委員会	(1) 本会の将来計画に関わる企画, 調査及び検討 (2) 薬理学研究推進の将来計画策定 (3) 学術集会のあり方, 実施計画への助言など (4) ダイバーシティ推進への取り組みの企画・策定 (ダイバーシティ推進事業は学術集会に限らず会員確保・増加に向けた取り組みとして行う)
DX 推進委員会	

IX. 理事会等報告

理事長：赤羽 悟美 以上 1名
理事：上原 孝，甲斐 広文，金井 好克，諫田 泰成，黒川 洵子，小泉 修一，杉山 篤，高橋 禎介，
月見 泰博，津田 誠，橋本 均，廣瀬 謙造，古屋敷智之，三澤日出巳，南 雅文，村松里衣子，
柳田 俊彦，山田 清文，若森 実 以上 19名
監事：上園 保仁，原 英彰 以上 2名
オブザーバー：安西 尚彦，今井由美子，谷内 一彦 以上 3名

1. 理事会構成について

2022年度は、赤羽 悟美 理事長，古屋敷 智之 総務委員長，橋本 均 財務委員長，小泉 修一 編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の 20 名で理事会が運営された。監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した。谷内 一彦 前理事長，安西 尚彦 年会長，今井 由美子 次期年会長がオブザーバーとして参加し，理事会運営を支援した。

2. 学会の運営方針について

本学会定款の「薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及，会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより，薬理学の進歩を図り，もってわが国の学術文化の発展に寄与することを目的とする」という趣旨に則り，これまでの理事会の方針を継承し，さらに活発な学術研究活動を推進するという今期の活動方針のもと，Diversity, Integration, Sustainability という 3 つのキーワードを掲げ学会運営を行った。

今期ではさらに，今後の学会運営に必要な事項を検討する将来構想委員会，DX 推進委員会の 2 つの特別委員会を新たに設置した。

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

1) 学術集会，講演会等の開催事業について

・第 95 回年会(宮田 篤郎 年会長)は，2022 年 3 月 7 日(月)から 9 日(水)まで，福岡国際会議場・福岡サンパレス (福岡県福岡市) の現地とオンライン会場を併用して開催された。

テーマ：『The Pharmacology as Innovation Commons: Creation and Inheritance of its Knowledge -イノベーション・コモンズとしての薬理学 ‘その知の創成と継承’』

・第 96 回年会(安西 尚彦 年会長)は，2022 年 11 月 30 日(水)から 12 月 3 日(土)まで，パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) で「JPW2022(Japan Basic and Clinical Pharmacology Week 2022・日本薬理学関連学会週間)」として第 43 回日本臨床薬理学会学術総会と同時期開催された。

テーマ：『つなげよう、つながろう - Let's be connected and united -』

・地方部会は，第 146 回関東部会，第 141 回近畿部会はオンライン形式，第 73 回北部会はオンライン会場併用のハイブリッド形式，第 142 回近畿部会，第 75 回西南部会は現地でそれぞれ開催された。

・薬理学振興助成事業の市民公開講座は第 95 回年会，第 75 回西南部会の開催に合わせて現地開催された。

・次世代の会による次世代薬理学セミナーは 9 月 18 日(日)に第 72 回北部会の開催に合わせて現地とオンライン会場併用のハイブリッド形式で開催された。

・看護薬理学カンファレンスは 3 月 6 日(日)と 11 月 20 日(日)にオンライン形式，10 月 1 日(土)に第 75 回西南部会の会場で開催された。それぞれ開催後にオンデマンド配信を行った。

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は隔月刊で，奇数月に発行している。

・Japanese Pharmacological Sciences (JPS) は，新たな Associate Editor (AE) を 4 名迎え，AE / Reviewers の強化や，編集スピードの向上に努めている。江橋節郎賞，学術奨励賞の受賞者には総説の執筆を積極的に依頼している。

JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の令和 4 年度受賞者 2 名を決定した。

- 3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について
- ・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき今井 由美子 氏（医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）を第 16 回江橋節郎賞受賞者に決定した。
 - ・第 38 回学術奨励賞受賞者 3 名を決定した。
 - ・第 27 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 2 編及び第 28 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 1 編を決定した。JPS 優秀論文賞は、過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に上位の論文から選考されている。
- 4) 薬理学に関する研究及び調査について
- ・第 96 回年会の事前参加登録者に一斉メールを配信し、参加者アンケートを行った。回収した参加者層のデータや参加目的、薬理学会の年会に対する様々な要望を分析し、今後の年会の活性化に生かしていく。
- 5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について
- ・第 95 回年会中の 3 月 9 日に ASPET 講師交換プログラムとして Dr. Katerina Akassoglou (Gladstone Institutes/UCSF) を招聘し、JPS-ASPET Lecture（オンライン講演）を開催した。
 - ・第 96 回年会中の 12 月 3 日に ASCEPT 講師交換プログラムとして Dr. Karen Gregory (Monash University) を招聘し、ASCEPT Lecture2022（オンライン講演）を開催した。
 - ・同じく第 96 回年会中の 12 月 2 日に第 24 回日韓薬理学合同セミナー（Chairman：安西 尚彦 教授）を開催し、Min-Goo Lee 教授 (Yonsei University)、小泉 修一 教授（山梨大学・医）による Special Lecture のほか、日本側、韓国側からそれぞれ 6 演題の講演、およびポスター発表が行われた。
 - ・第 31 回日本医学会総会が募集を行っている分科会・加盟学会のポスター展示企画に、これまでの薬理学会の取り組みや学術活動を掲載したポスターを作成し、提出した。
4. 令和 4 年度「薬理学エデュケーター認定」申請者 19 名を認定した。認定期間は令和 5 年から 5 年間である
5. 第 97 回年会長候補者（2023 年）、第 98 回（2025 年）年会長候補者の決定
第 97 回日本薬理学会年会長として医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダーの今井 由美子 氏が提案され、承認された。第 97 回年会は、2023 年 12 月 14 日（木）～12 月 16 日（土）に第 44 回日本臨床薬理学会学術総会と神戸国際会議場・神戸国際展示場 2 号館で同時開催される予定である。また、第 98 回年会は関東部会の担当とし、年会長候補者を内定した。
6. 名誉会員の推薦
令和 5 年度に就任する名誉会員候補者 3 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。
谷内 一彦、渡邊 裕司、満屋 裕明
7. 永年会員の推薦
令和 5 年度に就任する永年会員候補者 10 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。
平藤 雅彦、前田 定秋、高野 一夫、土田 勝晴、中川 秀幸、
仲澤 幹雄、本多 秀雄、松岡 隆、山本 隆一、渡辺 卓司
8. 令和 5 年度薬理学振興助成事業決定について
1) 次世代薬理学セミナー、2) 市民公開講座、3) 看護薬理学カンファレンス 2023、4) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー 2023、5) 新薬理学セミナー Digital Pharmacology Conference、6) 新薬理学セミナー 2023、7) アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー、8) IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会、9) 若手研究者キャリア支援プログラム、10) JPS-ASPET Lecture の各助成事業及び助成額を決定した。
9. 令和 4 年度の事業報告及び決算を承認し、学術評議員会及び総会に付議する。令和 5 年度事業計画及び予算は、令和 4 年 11 月 29 日開催の理事会の承認、決定を経て内閣府に提出した。
10. 令和 4 年度の新規入会者 335 名を承認した。令和 5 年度からシニア割引適用を希望する 10 名を承認した。

X. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順、敬称略)

総務委員会報告

委員長：古屋敷智之

委員：安西 尚彦，金井 好克，黒川 洵子，杉山 篤，新田 淳美，廣瀬 謙造，森岡 徳光，守屋 孝洋，柳田 俊彦

本年度は5月16日，11月18日にZoomミーティングを併用して委員会を開催した。

1. 規則の変更について

・前期委員会より，部会選出の常置委員候補者を常置委員会に限定して配置すると適材適所の人選が難しいため，常置委員会だけでなく特別委員会にも配置できるようにすること，また，年会長選出などに係る学会と部会との連絡を円滑に行う目的で部会代表理事を置くことを定款施行細則の条文として追加することを理事会に提案し，承認された。

今期委員会は，1) 部会選挙から推薦投票の廃止を決定したことから，関連する規則を改定すること，2) 名誉会員・役員等の訃報に係る規則を実情に即して変更すること，3) 学術評議員会選出理事の他部会転出時の対応を定めるために規則を変更すること，4) 名誉会員・永年会員の推薦要件に副年会長の実績を加えるため，推薦規定を変更すること，5) 共催・協賛・後援規則に申請から承認までの手順を明文化すること，6) 総会の審議事項に係る資料を代議員に電子媒体で配布できるように定款を改定すること，7) 薬理学振興助成事業選考規定運用細則第1項の学術集会の名称や所管委員会を，実情に即して変更すること，8) Web選挙に係るデータの作成作業に，過誤防止のため，選挙管理委員会が確認作業を行う手順を加え，投票有権者および被選挙権者の確定，開票，選挙結果の報告等，選挙に関連するすべての管理を行う選挙管理委員会の設置を明確にし，役員等選挙実施規定を変更することを理事会に提案し，すべて承認された。6)については，11月12日に臨時総会を開催し，特別決議として承認された。

また，常置委員会規定・別表に定められている各委員会の所管事項をそれぞれの委員長が確認し，委員会間で重複している事項や現状にそぐわない項目を整理した。変更点は資料「Ⅷ. 規則の制定・変更」を参照されたい。

2. 新名誉会員・新永年会員の推薦について

・名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，令和5年度に就任する名誉会員候補者3名，永年会員候補者10名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した。名誉会員候補者3名については，11月12日の臨時総会で承認された。

3. シニア会費適用の申請について

・令和5年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し，申請者10名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した。

4. 選挙投票率ならびに開票報告について

・8月1日から8月31日まで実施された代議員選挙の最終投票率は，以下のとおりであったことが報告された。

北部会：28.2%，関東部会：22.8%，近畿部会：23.0%，西南部会：29.3%

・9月1日から9月30日まで実施された役員候補者・常置委員選挙の最終投票率は，以下のとおりである。

北部会：41.7%，関東部会：33.3%，近畿部会：36.9%，西南部会：47.4%，投票総数：37.3%

投票率を上げるための工夫を行うことを次期委員会に付託することとなった。

・第96回年会参加登録者のWeb投票による2024年就任役員選挙を11月14日から11月18日まで実施した。当該選挙の結果は，資料「Ⅺ. 役員候補者選挙報告」のとおりである。

利益相反（COI）委員会報告

委員長：古屋敷智之

委員：安西 尚彦，金井 好克，黒川 洵子，杉山 篤，新田 淳美，廣瀬 謙造，森岡 徳光，守屋 孝洋，柳田 俊彦

11月の総務委員会に合わせて委員会を開催した。COI申告書については，委員長と黒川委員により審査が行われ，その結果が委員に報告された。

財務委員会報告

委員長：橋本 均

委員：石毛 久美子，岩本 隆宏，甲斐 広文，金井 好克，杉山 篤，平 英一，武田 泰生，富田 修平，三澤 日出巳
赤羽 悟美（オブザーバー）

委員会を11月11日にZoomにより開催した。令和4年度の決算処理を行い、令和5年度の予算案を編成した。会計処理に係る重要事項はワーキンググループで事前に検討を行った。

1. 令和4年度決算について

新型コロナウイルス感染症第6波-8波が到来するなど、令和3年に引き続き事業形態に大きな影響があった。令和4年は年会在2回開催されたことで事業規模が拡大し、収入149,480,222円、支出168,302,792円、収支差額は約1,882万円の赤字で決算した。一般正味財産は1億8,117万円、指定正味財産と合わせた令和4年度末の正味財産は1億8,594万4,577円となり、前年度より約1,780万円の減少であった。

1) 個人会費収入は緩やかではあるが、減少が続いている。賛助会員は、退会や口数減の申し出があり、予算813万円を下回る705万円であった。

2) 公1事業：

- ・第95回年会は開催直前にハイブリッド形式に変更したこともあり、1千万円を超える赤字が生じることとなった（会期3月7日-同月9日）。
- ・第96回年会はオンライン形式で開催され、年会長立案の多彩な企画により盛会裏に終了し、約360万円の黒字で決算した（会期11月30日-12月3日）。
- ・第95回年會に始まり5部会、第96回年會へとつなぐPYJ企画が計画され、基金募集を行った結果、168万円の資金が集まった。基金募集の使途に基づき、特定資産としてPYJ基金を創設した。
- ・部会は計5部会（オンライン2部会、ハイブリッド開催1部会、オンライン2部会）が開催された。会場費は予算の約277万円より抑えることができた（約135万円）が、謝金・その他は予算（約175万円）を上回る支出（約245万円）となり、交付金は約50万円が学会会計に返却された。
- ・薬理学振興助成事業には、約430万円の補助金を支出した。
- ・学術集会関連支出は、管理費から事務所借料、給与手当、業務委託費等の配賦を含めた合計は約1,268万円となった。

3) 公2事業：

- ・和文誌の刊行収入は購読料や広告料等で約515万円であったが、支出額は管理費からの配賦額を含めて1,543万円である。昨年度より収入は減少し、支出は増加となった。
- ・英文誌はエルゼビアのロイヤリティ収入として、掲載料収入と広告料収入の年間合計が14万ドルを超えた金額の10%に当たる約116万円が学会に入金された。円安の影響で、ドル建てで支払うエルゼビアの編集事務局経費（45,000USドル）や学会負担のSpecial Issueの掲載料は昨年度と比較して膨らんだ。国際情報発信科研費（650万円/年）だけでは、全額の充当は厳しいがロイヤリティ収入如何では、英文誌の出版費用をカバーできる状況である。

4) 公3及び公4事業：

- ・褒賞事業は、委員会のオンライン開催による旅費の減少以外に大きな変化はなかった。
- ・国外の団体との連携事業は会議等がオンライン開催となり、旅費等の支出が発生しなかった。

5) その他事業：令和4年のエデュケーター認定申請は、19名であった。

6) 管理費：会議にオンラインミーティングを採用入れることにより、旅費および会議費が予算額より減少した。

一方、年会費、参加登録費の電子決済増加に伴い支払手数料は増加傾向にあり約142万円となっている。

2. 令和5年度予算案編成の件

令和5年度は収入を約1億911万円、支出を約1億2,162万円、収支差額を約1,251万円の赤字予算を編成した。①第97回年會は日本臨床薬理学会と同時開催される（会期12月14日-同月16日）、②部会は通常の6回開催である、③刊行事業は令和4年と同じ発行回数、発行形態である、④褒賞事業は、例年のスケジュールで受賞者の選考を行う、⑤令和5年はWCP2023の開催があり、連携事業は予算額に加えて薬理学国際基金を取り崩して行う事業が発生する見込みである。

令和4年度に引き続き1,000万円を超える赤字予算の作成方針が妥当か検討し、予算案の赤字額を上限として、予算執行することを確認のうえ、本予算を理事会に提案した。

各委員会には引き続きオンライン開催を有効活用して、経費節減への協力を仰ぐ。

1) 第147回関東部会で総会を開催するため、65万1千円を学会負担の学術集会費に計上した。

2) 第97回年會時の託児所経費として55万円の学会補助を決定した。この額を学会本体が支出する費用の上限とし、超える場合は年會の予算から捻出するよう、年会長に理解を求めた。

3) 薬理学振興助成事業申請数は例年並だが、規定内の目安である500万円を若干上回った約540万円を計上している。

4) 国内外の学術団体との連携による交流が増え、連携事業に211万円を計上している。

5) 法人会計は、事務局業務引継ぎのため、事務局人件費を増額している。

6) 公2の刊行事業のうち和文誌は隔月発行しているが、刊行収入は減少しており、特に広告料収入は減少の一途を辿っている。印刷経費の値上がりにより、さらに和文誌の赤字が増大する可能性があることから、担当の広報委員会に完全電子化を含めた赤字軽減策を検討頂く。

3. 日本薬理学会の財務方針について
 - ・公益社団法人として公益事業の収支相償に努め、内部留保額や管理費が必要額以上の黒字となった場合は、基金に一部を繰り入れて事業の経費に充てる会計方針を継続する。
4. その他対応事項等
 - ・「電子取引で授受したデータの取り扱いについて」の国税庁通達を本会で適用するにあたり、公認会計士の助言をもとに「電子データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程」を作成し、令和4年度第6回理事会で承認された。本規程に基づいた会計処理を令和5年より行う。また必要に応じて関連する規程や書式等の改定、併せて運用の見直しを行う。

研究推進委員会報告

委員長：津田 誠

委員：石川 智久，小原祐太郎，甲斐 広文，香月 博志，諫田 泰成，成田 年，西山 成，村松里衣子，山村 寿男

本年度は、6月20日、10月19日にZoomにて開催し、その後、数回メール審議を行った。

1. 日本薬理学会パンフレット「薬理学へのいざない」について

11月に冊子体を作製し、第96回日本薬理学会年会の市民公開講座にて配布した。今後、各部会で開催する学術評議員会等で配布することとした。また、各部会の参加者や日本薬理学会の周知につながる活動（市民公開講座や共催シンポジウムなど）でも配布する。パンフレットの保管については、現在の保管先である発送代行業者に発送業務と併せて委託することとなった。今後、保管部数が減ってきた時点で、保管場所を日本薬理学会事務局へ移すことも併せて検討する。
2. 日本薬理学会のDORAへの署名について

DORAのメリットとデメリット、生科連や他学会等での状況や動向等について引き続き情報収集を行い、編集委員会や他の委員会との連携を図りながら、継続して議論することとした。
3. 日本医学会創立120周年事業「未来への提言」に対する意見募集について

「未来への提言」およびそれに関する日本薬理学会からの情報提供資料等を委員会で共有し、意見をとりまとめ、赤羽理事長に提出した。
4. 日本学術会議「未来の学術振興構想の策定」について

20～30年先を見据えた研究・教育ビジョン、そのビジョンを実現するための今後10年の研究構想などに関する意見を提出した。
5. 第31回日本医学会総会における分科会/加盟学会展示ポスターについて

広報委員会および日本医学会連絡委員と共に日本薬理学会の展示ポスターを作成した。
6. 日本薬理学会のアクティビティーの向上につながる取り組みについて

第97回日本薬理学会年会において、次世代の会と連携して、大学院生等を対象とする企業やアカデミアへのキャリア形成企画を開催することとなった。

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：小泉 修一

委員(JPS Section Editors)：岩本 隆宏，大野 行弘，諫田 泰成，東田 千尋，中川 貴之

(JPS Associate Editors)：久米 利明，黒川 洵子，山村 寿男，香月 博志，富田 修平，吾郷由希夫，小原祐太郎(オブザーバー)

I. JPS 投稿・審査状況(投稿数、採択率、IF、スピード)(2023年1月10日現在)

1. 受付論文数

1) 推移(2017-2022)

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
Submitted	348	525	603	825	1,071	543
Rejected	180	287	344	592	817	425
Accepted	108	137	127	110	117	92
Withdrawn etc	32	47	50	190	137	158
Publications	95	143	129	119	124	87

- ・右肩上がりであった投稿数が大幅に減少し、4年前の水準に戻った。

2) 国別 (2021-2022)

年・国	中国	日本	India	Iran	Egypt	USA	Thailand	Taiwan	Korea	Pakistan
2021	765	92	50	30	20	11	9	8	5	5
2022	394	84	6	6	-	8	2	8	6	4

・右投稿数の大幅減は中国からの投稿数減による。エジプトからの投稿数減も残念。

2. 採択数

1) 国別の採択状況 (Top 10)

年・国	日本	中国	韓国	USA	Taiwan	Thailand	Ireland	Italy	Sweden	Canada
2021	67	29	2	4	1	1	0	1	0	3
2022	71	11	2	2	1	1	1	1	1	1

・日本論文の採択数が多い。欧米、韓国、発展途上国論文を増やしたい。

2) Section別Accept/Reject論文数2022 ()内は2021年の数値

Section	Status	Number
Anticancer drug/Toxicology	Accepted	4(13)
	Rejected	100(168)
Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology	Accepted	13(19)
	Rejected	71(162)
Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems	Accepted	44(39)
	Rejected	136(241)
Natural and herb medicine	Accepted	10(13)
	Rejected	67(132)
Neuropharmacology	Accepted	20(30)
	Rejected	50(114)
Section 導入以前	Accepted	1(2)
	Rejected	0(0)
Total		517(934)

3. Impact Factor (Journal Citation Report JCR® 発表)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
IF	2.150	2.114	2.360	2.106	2.415	2.575	2.439	2.835	3.337	3.578
Citation							4,069	4,217	5,204	5,473

・IF及びCitation数は順調に伸びている。

4. 編集スピード (week)

年	2018	2019	2020	2021	2022
First Decision	4.4	5.0	5.0	5.1	5.0

・最初のdecisionまでのスピードは5週間程度で落ち着いている。4週間台を目指す。

II. JPS 審議・決定、報告事項

1. 編集体制について

国内編集委員 (16名)

編集委員に加え以下の新Associate Editorsを追加

循環器分野：山田 充彦 教授 (信州大学)，西谷 友重 教授 (和歌山県立医大)

がん分野：中山 恒 教授 (旭川医大)，池田 龍二 教授 (宮崎大学)

海外編集委員 (7名：Tangui Nicolas maurice (仏) は退任。Dr So Won Kim (韓) を追加)

Qiang Xu (中)，Shenuarin Bhuiyan (米)，Feng Han (中)，Naoki Yoshimura (米)，Frank A. Redegeld (蘭)，Daisuke Sato (米)，So Won Kim (韓)

2. JPS 優秀論文賞について

JPS 優秀論文賞規定およびJPS 優秀論文賞受賞論文選考規定に従って、令和2年(2020)–令和4年(2022)の3年間に掲載された原著論文の中から、第28回JPS 優秀論文賞 (The JPS Prize 2023 Awards) 受賞論文を以下のとおり決定した。

著者：Tomoyoshi Miyamoto, 所属：Faculty of Pharmacy, Kindai University,

タイトル：Estrogen decline is a risk factor for paclitaxel-induced peripheral neuropathy: Clinical evidence supported by a preclinical study.

3. JPS優秀査読者賞について

JPS 優秀査読者賞規定およびJPS 優秀査読者選考規定に従って、2022 年度JPS 優秀査読者賞 受賞者2名 を決定した

(アルファベット順) .

・ Hitoshi Ando (Kanazawa University)

査読回数 : 42回, 平均査読日数 : 4日

・ Katsuya Hirano (Kagawa University)

査読回数 : 35回, 平均査読日数 : 2日

4. 国際情報発信強化の取組みについて (科研費 国際情報発信強化Aの中間評価)

(1) 欧米からの論文投稿数を増やす

中間点の目標 : 50 → **現在 52 (2020年) , 39 (2021年) (未達成)**

【対策】

- ・ 国際学会 (例えば英国の国際薬理) でのブース等による広報活動強化
- ・ SNS等を使った広報活動

(2) SE制への移行とそれによる強化

a. 中間点の目標 : 外国人Associate Editor 2名 → 現在 7名 (達成)

b. 中間点の目標 : 初回決定までの時間 (週) 4.3 → **現在5.0 (未達成)**

【対策】

- ・ Editorの強化 → 新Associate Editors
- 循環器分野 : 山田 充彦 教授 (信州大学) , 西谷 友重 教授 (和歌山県立医大)
がん分野 : 中山 恒 教授 (旭川医大) , 池田 龍二 教授 (宮崎大学)
- ・ 良質な査読者プールの構築

(3) 発展途上国からの投稿論文数の増加

中間点の目標 : 65 → **現在 44 (2020年) , 38 (2021年) (未達成)**

【対策】

- ・ 海外のゲストエディターを招聘してのSI
- ・ Research4Lifeの活用と宣伝
- ・ 国際学会ブース等による発展途上国向けの広報活動

(4) 新規性・革新性の高い論文を掲載する

中間点の目標 : 総引用回数 4,000 → 5,473 (達成)

中間点の目標 : IF 2.7 → 現在3.578 (達成)

広報委員会報告

委員長 (会誌編集長) : 山田 清文

委員 : 吾郷由希夫, 石澤 啓介, 石澤 有紀, 上原 孝, 大矢 進, 金子 周司, 木内 祐二, 久米 利明, 武田 泰生, 田熊 一敬, 成田 年

2022年5月27日および12月1日に委員会を開催した。また必要に応じてメール審議を行った。

1. 賛助会員への特典について

賛助会員への特典となる「①薬理学関連研究室で開催されるZoomオンラインセミナーへの無料参加権の提供」と「②大学等との共同研究窓口を紹介する薬理学会Webページへのアクセス権の提供」の実施について検討を行った。②については、京都大学、名古屋大学と広島大学の窓口情報をGoogleグループメンバーリングリストにて配信済みである。

2. 学会HPへのバナー広告について

10口以上の賛助会員には特典として学会HPへのバナー広告を無料で掲載しているが、それ以外の企業・団体にも有料でバナー広告を募集することとなった。これに向け、広報委員会での募集要項について検討を行い、掲載期間は1年間、掲載料金は、賛助会員(1口~9口)に対しては50,000円、賛助会員以外に対しては80,000円とする案などをとりまとめ、理事会に答申した。

3. 薬理学会出版物の複写等の管理委託について

薬理学会の出版物のうち、年会抄録集、地方部会抄録集、看護薬理学カンファレンス要旨集、次世代薬理学セミナー要旨集はこれまで複写等についての管理を行っていなかったが、その需要が見込まれるため、複写管理を行うこと、またその委託先として日薬理誌やエルゼビア移行前のJournal of Pharmacological Sciencesなどの複写管理を委託している学術著作権協会が相応しいことを決め、理事会に諮ることとした。

4. 日薬理誌発刊事業の経費効率化について

日薬理誌の出版経費について、財務委員会からの要請を受けて、効率化のための検討を進めている。その対応策の一つとして、冊子体を廃止して完全オンラインジャーナル化にする案があり、経費シミュレーションなどを基に検討を行った。オンライン化について委員会では様々なメリット・デメリットが挙げられており、広報委員会として会員アンケートを行う予定である。

なお、出版経費の効率化に関連し、今後「特集」記事を中心にオンラインでの早期公開を活用することを決めた。これにより、年間の印刷費を多少でも抑制できることに加え、著者にとっては出版までの期間が短縮されることが利点となる。

企画教育委員会報告

委員長：南 雅文

委員：石毛久美子、石澤 啓介、上原 孝、坂本 謙司、西山 成、村松里衣子、柳田 俊彦、山口 拓、若森 実

前回の総会以降、委員会を4回（対面1回、WEB2回、メール審議1回）開催し、所管事項について検討を行った。

1. 新学術評議員申請の審査

新学術評議員選考規定に基づき、学術評議員申請の審査を行った。通常申請者29名については、申請者全員が、会員歴および業績の基準を満たすことから29名の申請者全員を新しく学術評議員とすることとした。特例措置での申請分1名についても、新学術評議員選考規定第6条に照らし、特例に該当することから、新しく学術評議員とすることとした。以上の審査結果により30名を理事会に上申することとした。

2. 薬理学エデュケーター申請の審査

事前に各委員より送付された審査結果に基づき、2022年度の薬理学エデュケーター申請の審査を行った。申請19件について申請要件を満たしていることから、薬理学エデュケーターとして認定することを理事会に上申することとした。同候補者について理事会に諮ったところ、全19名の認定が承認され、ホームページに認定者一覧を掲載した。令和5年1月に発効する薬理学エデュケーター認定証を送付した。

3. 次世代薬理学セミナー開催報告・開催計画

次世代薬理学セミナーについて、2022年の開催報告と2023年の開催計画の説明がなされた。次世代薬理学セミナーについては、今後もできる限り、オンサイトとWEBのハイブリッド開催とすることとした。

【次世代薬理学セミナー開催報告と開催計画】

- 2022年9月18日 札幌（第73回北部会）
- 2023年3月21日 東京（第147回関東部会）
- 2023年10月7日 那覇（第76回西南部会）

4. 看護薬理学カンファレンス開催報告・開催計画

看護薬理学カンファレンスについて、2022年の開催報告と2023年の開催計画の説明がなされた。

【看護薬理学カンファレンス開催報告と開催計画】

- 2022年3月6日 福岡（第95回年会）
- 2022年10月1日 高知（第75回西南部会）
- 2022年11月20日 横浜（第96回年会）
- 2023年6月 （第148回関東部会）
- 2023年12月 （第97回年会）

5. 日本薬理学会「薬理学エデュケーター」認定実施要項改訂のお知らせ

改定日：2023年4月1日

エデュケーター制度のポイント付与方法について審議し、改定を行うことを理事会に上申した。改定の要点を以下に記す。それに伴い「薬理学エデュケーター認定申請書」の改訂を行うとともに、新たに「薬理学エデュケーター更新申請書」を作成することとした。

【変更の要点】

- 各学術集會に付与するポイントを1～10までの整数で任意に指定できるようにする。（年会・部会：10ポイント/日、次世代薬理学セミナー5ポイント、看護薬理学カンファレンス3ポイント）
- 2023年3月末までに取得しているエデュケーターポイントを一律10倍にする。
- 学術集會の時間帯を区切ってポイント付与できるようにする。
- 年会・部会の参加により取得したポイント（カテゴリ1）と、それ以外の学術集會の参加により取得したポイント（カテゴリ2）を分けて記録できるようにする。

6. 薬理学教育リソース共有システムへのコンテンツ提供のお願い

<https://pharmacol.or.jp/educ-resources/>

【共有システムのアクセス権】

- 薬理学エデュケーター
- 薬理学教育を担当する講座（部門）の教授及びこれに準ずる者のうち、企画教育委員会が認める者。ただし、アクセス権は3年間とし、その間に薬理学エデュケーターの資格を取得することを強く推奨する。

賞等選考委員会報告

委員長：甲斐 広文

委員：大野 行弘，三枝 禎，酒井 規雄，杉山 篤，西村 有平，新田 淳美，村松里衣子，山口 拓

委員会を1回開催し，以下について審議した。

1. 第38回（令和5年度）学術奨励賞

受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」，「学術奨励賞規定」，「学術奨励賞受賞者選考規定」，推薦者の評価方法，基本方針を確認し，候補者8名の推薦書について，事前に全委員が審査した評価をもとに検討を行った結果，委員会は，第38回日本薬理学会学術奨励賞の受賞候補者として，北田 研人 氏，清水 翔吾 氏，西山 和宏 氏（五十音順）の3名を理事会に答申することを決定した。

候補者名，研究課題は，以下のとおりである。

【受賞候補者】

北田 研人（香川大学 医学部 薬理学・助教）

『「全身性体液保持機構」の発見とその病態生理学的意義の解明』

清水 翔吾（高知大学 教育研究部医療学系基礎医学部門 薬理学・助教）

『排尿を促進する脳内物質の発見と排尿障害に対する新規薬物治療戦略の基盤構築』

西山 和宏（九州大学大学院 薬学研究院 生理学・講師）

『Gタンパク質共役型受容体の機能性修飾に着目した薬理学的研究』

2. 令和4年度開催の薬理学振興助成事業の選考について

申請のあった11件について審議を行い，10件については申請額を含め，採択することを決定した。

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

- ・第13回日本学術振興会 育志賞：1名を学会推薦
- ・令和5年度科学技術分野 文部科学大臣表彰若手科学者賞：1名を学会推薦
- ・第31回日本医学会総会奨励賞：1名を学会推薦
- ・第21回高峰記念第一三共賞：団体（3名）を学会推薦

年会学術企画委員会報告

委員長：若森 実

委員：甲斐 広文，吉川 公平，高橋 禎介，戸村 裕一，西田 基宏，西山 成，村松里衣子

オブザーバー：赤羽 悟美（理事長），安西 尚彦（第96回年会長），今井由美子（第97回年会長），

月見 泰博（理事），日比野 浩（第97回副組織委員長）

第96回年会在12月に開催されたため，4月まで前期の委員会で第96回年会企画の大部分を決定し，5月から今期の委員会が引き継いで検討を行った。Zoomによる3回のオンライン委員会とメーリングリストを利用した議論を実施し，以下の件について，審議・合意した。

第96回年会企画について

1. 実施概要：パシフィコ横浜でのオンサイトによる日本臨床薬理学会との同時開催。また第95回年会（2022年3月開催）と第96回年会（2022年12月開催）は時期が接近しているため，連続性を持たせた企画を実施することを前期の委員会で承認している。
2. シンポジウム：一般公募シンポジウム36件，企業企画シンポジウム3件，ワークショップ1件，共催シンポジウム11件の応募があった。委員およびオブザーバーによって，重複がないことや最新知見の紹介あるいは教育的なレビューなど，それぞれの実施目的を確認した。演者が3名以下の企画は60分枠のワークショップに移し，全企画を採択した。
3. 創薬シーズ特設シンポジウムをオンサイトのみで開催した。

第96回年会企画の振り返り

オンサイト開催の重要性，日本臨床薬理学会との同時開催の利点を確認し，多くの新しい試みを高く評価した。

1. 委員会が採択した一般公募シンポジウム，企業企画シンポジウム，ワークショップ，共催シンポジウムについて概ね盛況であり，今後も同様の支援，企画を当委員会が実施することとした。
2. 創薬シーズ特設シンポジウムの演題数は前回と同じ7件で，参加者アンケートの結果は前回と同様に好評であった。方向性，公募時期，開催方法，教育的効果を狙った学生の参加などの改善点について検討する。

江橋賞選考委員会報告

委員長：赤羽 悟美

委員：大隅 典子，谷口 維紹，鍋倉 淳一，深見希代子，和田 圭司（以上学会外委員）
飯野 正光，岡 淳一郎，成宮 周，谷内 一彦

第16回江橋賞候補者選定のための委員会を10月20日にZoomミーティングにより開催した。

1. 第16回江橋節郎賞候補者選考経過について

- ・第16回江橋節郎賞の候補者は4名であった。
 - ・委員10名により、各候補者の研究を「独創性」、「世界から見た位置づけ」、「当該分野に与えた影響度」、「研究の流れ・今後の発展性」の4項目と、学会内委員は「薬理学への貢献」を加えた5項目で、それぞれを10点満点とする事前評価を行い、その結果は選考の参考とすることを確認した。
 - ・学会内委員による各候補者紹介の後、評価項目について意見交換を行った。
 - ・候補者の決定は後日の投票によることとし、委員長とCOI該当者を除く委員9名で無記名投票を行い、1回目の投票では出席委員の3分の2以上の票を獲得した候補者がいなかったため、上位2名について委員長を除く委員9名による決戦投票を行った。投票の結果、投票数の3分の2以上を獲得した今井 由美子 氏を、第16回江橋節郎賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した。
- 候補者の研究テーマ：『ウイルスに対する宿主生命システムの動作原理の解明と新規治療基盤の確立』

2. 受賞候補者の研究について

今井候補は、トロント大学在籍時に人工呼吸法と多臓器不全の発症に関する研究に取り組み、Josef Penninger氏との共同研究においてSARS-CoVの細胞膜受容体としてACE2を同定しSARSの重症化に関与していることを明らかにした。その後も一貫してウイルス感染症の重症化機構の研究を展開し、新規脂肪酸代謝物のRNA制御を介した重症化抑制機構やクロマチン高次構造変化と病態の関係を解明した。

3. 今後の検討課題について

下記の課題について委員会で検討する。

- ・江橋賞候補者の募集について
第16回は『トランスレーショナルリサーチ・応用』の領域から募集を行った。次年度は基礎の分野で募集を行うことが予定されている。毎年同じ評価表を用いているが、募集する領域によって評価表の評価基準も変えるべきではないか。
- ・評価指標の見直しと検証方法について

4. 委員の任期満了について

第16回の選考をもって外部委員2名と委員長が4年の任期を満了する。今回は、新委員長のもとで選考を行う。

国際対応委員会報告

委員長：金井 好克

委員：安西 尚彦（副委員長），黒川 洵子，西田 基宏，廣瀬 謙造，古屋敷智之，若森 実

顧問：飯野 正光，三品 昌美

オブザーバー：石井 優（IUPHAR Immunopharmacology section 委員），川畑 篤史（国際対応アソシエイツ），
小泉 修一（編集委員長），近藤 一直（IUPHAR Education section 委員），富田 修平（IUPHAR PEP 委員）

2022年6月25日に委員会（Zoom会議）を開催した他、随時メールによる審議を行った。

1. 前期委員会からの引き継ぎ事項の確認

2022年6月25日開催の委員会において、国際対応委員会の役割としての重要事項である「薬理学会会員へのさらなる情報提供と連携の推進（特に国際対応委員会HP「国際交流ひろば」を活用した情報提供と、国際対応アソシエイツを中心とした連携推進）」「国際対応のための戦略策定と国際的プレゼンスの確立・維持」「国際対応について理事会および他の委員会との連携のさらなる強化」を含めて、前委員会からの引き継ぎ事項が確認された。

2. 今期の各国薬理学会等担当

- ・各国薬理学会：金井 好克（IUPHAR および全般），安西 尚彦（APFP およびKSP 担当），黒川 洵子（KSP 担当），西田 基宏（ASPET 担当），廣瀬 謙造（BPS 担当），古屋敷 智之（CNPHARS 担当），若森 実（ASCEPT 担当）
- ・日本学術会議関連：IUPHAR 分科会（第25期：金井 好克）
- ・IUPHAR, APFP 関連：NC-IUPHAR: 金井 好克，貝淵 弘三，Education Section: 近藤 一直，Pharmacology Education Project (PEP): 富田 修平，Immunopharmacology Section: 石井 優，APFP Secretary General/Treasurer: 安西 尚彦，APFP councilor: 飯野 正光，APFP past president: 三品 昌美，Early Career Researcher Committee: 中嶋 藍

3. 国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」
本委員会のミッションのひとつである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づく「会員への情報提供」の一環として、国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」を日本薬理学会 HP に開設している。国際交流イベント情報を掲載するとともに、IUPHAR, APFP, KPS, CNPHARS, ASCEPT, ASPET, BPS と連携した活動を紹介している。また、IUPHAR の薬物標的・創薬標的データベース Guide-to-Pharmacology および薬理学電子教科書 IUPHAR Pharmacology Education Project (PEP) , WCP2018 (Kyoto)アーカイブ (YouTube) 等のバナーを置いている。
4. 国際対応アソシエイツ
本委員会の重要な役割である「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づき、会員との連携推進の一環として、国際交流のさらなる充実・拡充と国際交流イベント等への参画を促進することを目的として「国際対応アソシエイツ」を立ち上げ、活動している。国際対応アソシエイツは、国際交流に関する会員の連絡会であり、国際対応委員会と連携し、イベント等の企画、立案、実施へ参画、必要に応じて国際対応委員会にオブザーバーとして参加する。
5. 第24回日韓薬理合同セミナー。2022年12月2日(金)10:00-18:15, 第96回日本薬理学会年会第6会場にて、韓国側参加者を迎えて開催した(Chairman: 安西 尚彦 教授)。特別講演 Min Goo Lee 教授 (Yonsei University), 小泉 修一 教授 (山梨大学) に加え、日本側, 韓国側からそれぞれ6演題の講演, およびポスター発表が行われた。
6. ASPET との講師交換プログラムとして, 第95回日本薬理学会年会(宮田年会長, 福岡)へ, ASPET から Dr. Katerina Akassoglou (Gladstone Institutes and University of California) を講師として招聘(オンライン講演)。
7. ASCEPT との交流では, 講師交換プログラムとして, 第96回日本薬理学会年会(安西年会長, 横浜)へ, ASCEPT から Dr. Karen Gregory (Monash University) を講師として招聘(オンライン講演)。
8. 次回の日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting は, 2023年に上海にて開催する予定で検討されている。
9. APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists). 第15回 APFP 会議は, ASCEPT, APFP & APSA Joint Congress として, 2024年12月1日~5日にオーストラリア・メルボルンで開催の予定。
10. WCP2023 (Glasgow UK) は, 2023年7月2日~7日に開催予定。
11. IUPHAR 対応。IUPHAR では, 理事会構成の大きな変更が行われた。日本学術会議 IUPHAR 分科会と連携しながら新たな体制に対応していく。

将来構想委員会報告

委員長：杉山 篤

委員：首藤 剛, 津田 誠, 西谷 友重, 古屋敷智之, 三澤日出巳, 南 雅文, 向田 昌司, 森本 達也

オブザーバー：赤羽 悟美 (理事長), 安西 尚彦, 今井由美子, 白川 久志

Zoom ミーティングによる委員会を4回開催し, 所管事項について検討を行った。

- 1) 薬理学会年会への参加者数(参加率)を増やす取り組み
Google フォームを利用して参加者への事前・当日アンケートを実施した。年会・部会への参加頻度や年会への参加目的, 開催形式や開催時期, 日本臨床薬理学会との同時期開催について意見を聴取した。今後の企画や薬理学会の年会に求める内容については, 自由記述式で意見を募った。開催後のアンケート調査の準備も進めており, 調査結果を今後の年会の活性化に生かしていく。
- 2) 託児所開設/ベビーシッター雇用支援
財務委員会と協議した結果, 今年度より年会で託児所を開設する場合には, 薬理学会から支援金を支出する方針となった。第96回年会においては, 新型コロナウイルス感染症の動向を考慮し託児所の開設を見送った。
- 3) ダイバーシティの取り組み報告
ダイバーシティ推進セミナーの運営は今年度より将来構想委員会の所管事項とすることとし, 「デジタル化社会における新しい研究・教育スタイルの推進」をテーマに活動している。第96回年会におけるダイバーシティ推進ランチョンセミナー2022 では「薬理学とデジタル技術の新時代: 池谷 裕二 氏」および「VR を用いた医療教育の現状と未来: 株式会社ジョリーグッド」の2つの講演および参加者アンケートを実施した。第97回年会のダイバーシティ推進ランチョンセミナー2023 については, 2023年度の薬理学振興助成事業として申請した。本セミナーが, 異なる立場の会員の多様な意識と考え方を共有する貴重な機会となることを期待している。
- 4) 薬理学振興助成事業申請
これまで賞等選考委員会および財務委員会が採択と助成額を決定してきたが, 薬理学会の発展や意義を鑑み, 将来構想委員会で本助成事業のあり方を検討し, 提案することとなった。申請者自身が薬理学振興助成事業の目的と運営に見合う企画内容であることを申告するチェックリストや, 本助成事業の運用に関する委員会としての基本方針を作成した。選考は審査を担当する賞等選考委員会で実施することになるが, 将来構想委員会においても引き続き検討する。

DX 推進委員会報告

委員長：上原 孝

委員：安西 尚彦，池谷 裕二，金子 雅幸，諫田 泰成，三枝 禎，坂本 謙司，土屋浩一郎，西田 基宏

本年度は Zoom によるオンライン委員会を開催した他，随時メールによる審議・合意を行った。

1. 本委員会活動の方針

委員会発足にあたり，理事長より付託された 1) 100 周年記念事業としてのデジタル・プラットフォーム構築，2) 薬理学エドゥケーター向け教育リソース共有サイトの整備，3) 学術集会における講演等の記録の活用，4) デジタル出版物の提供，5) 会員情報の拡充といった課題に関して，どのような方法で DX を推進することが可能か委員の間で意見を交換した。その中で，1) や 2) に関しては，担当するそれぞれの委員会で既に対応を進めており，当委員会は各委員会と情報共有を行いながら協力することが確認された。また，編集委員会や広報委員会においても既に出版物のデジタル化や HP での情報発信を取り入れており，関連する委員会委員から構成されている本委員会では，各委員会に検討課題を持ち帰り議論を深めてゆく方針とする。5) に関しては，非常に重要な課題であり，会員情報の収集とその活用に取り組む必要がある。そこで，本件については，総務委員長を筆頭に構成された会員情報再検討 WG が着手することとなり，本委員会からは上原委員長が参画し活動を行っている。

2. 本委員会の今後の活動内容

初回の会議以降，各委員で情報を収集し，メール会議にて，新たに取り組むべき課題について確認した。委員からは，1) 海外学会における JPS の宣伝に関するコンテンツ作成，例えば，海外薬理系学会における本会の宣伝などにも有用である LinkedIn (英語ページ) などを作成・発信することを編集委員会と共に構築していきたいことや，2) DX 推進には HP の充実が必須であることから，今後のリニューアルに向けて，様々なコンテンツ掲載やプラットフォーム構築を組み込んでいきたいということが確認された。その際には，事務局に負担を極力かけない方策を講じるよう努めることを検討している。今後もどのような活動が本会会員にとって重要であるかを引き続き議論していく。

【会員情報再検討 WG 報告】

委員長：古屋敷智之 (総務委員長)

委員：上原 孝 (DX 推進委員長)，小泉 修一 (編集委員長)，橋本 均 (財務委員長)，南 雅文 (企画教育委員長)

オブザーバー：赤羽 悟美 (理事長)

学会の諸活動に適材適所の人員配置を行うため，会員の専門分野，研究対象・手法，資格などの会員情報の活用が期待されている。現時点の会員管理システムでは，「専門領域」の項目を 2 つまで選択することができるが，入力には任意であり，多くの会員が未登録である。また「専門領域」の選択肢も長らく更新されておらず，選択肢リスト作成時に想定していなかった多様な会員像を包括していない。また，会員の属性を多面的に把握するためには十分ではない可能性も指摘されている。これらの諸問題を解決するため，会員情報を取り扱う総務委員会，財務委員会，編集委員会，企画教育委員会，DX 推進委員会から意見を集約し，会員情報入力項目を刷新することを目指して議論した。10 月 11 日と 1 月 23 日に Zoom ミーティングにて WG を開催し，WG での意見交換ならびに各委員会からの意見聴取をもとに修正案を作成した。本修正案での会員管理システム改修を理事会に提案する。

【次世代の会活動報告】

2022 年運営委員

北部会：川畑伊知郎，長沼 史登

関東部会：小山 隆太，林 良憲，平山 友里，溝口 尚子，道永昌太郎，宮川 和也 (2022～代表)

近畿部会：石澤 有紀，衣斐 大祐，大垣 隆一，篠原 亮太，鈴木 良明，坪田 真帆，永安 一樹

西南部会：清水 孝洋，藤川理沙子，向田 昌司，矢吹 悌，山下 智大

COVID-19 の影響もあり，2022 年は随時メール会議を行った。

1. メンバー編成

○規定により，下記，6 名の先生が次世代の会を退会された。

井手 聡一郎，大久保 洋平，白川 久志，タムケオ・ディーン，橋川 成美，村田 幸久

○2022 年より，下記の先生が次世代の会運営委員に就任された。

平山 友里 (千葉大学大学院医学研究院薬理学)

道永 昌太郎 (明治薬科大学薬学部薬効学研究室)

永安 一樹 (京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野)

藤川 理沙子 (九州大学大学院薬学研究院薬理学分野)

2. 第95回日本薬理学会年会@福岡（2022年年3月）における次世代の会企画
 - ・次世代の会シンポジウム 担当：矢吹 梯（熊本大）
 - 「若手研究者が切り開く神経変性疾患研究の最前線」
 - ・若手研究者キャリア形成支援プログラム 担当：大垣 隆一（大阪大）
 - 1) 学生セッション
 - 学生による口頭発表・学生座長によるセッション進行・学生優秀発表賞選考
 - 2) 若手研究者キャリア形成セミナー
 - 宝田 剛志（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）
 - 栗山 千亜紀（田辺三菱製薬株式会社）
3. 次世代薬理学セミナー
 - 「次世代薬理学セミナー 2022 in 札幌」を第73回北部会（2022年年9月）において併催した。
 - 担当：長沼 史登（東北医薬大），川畑 伊知郎（東北大）
 - 「次世代神経薬理学の最前線」
4. 第96回日本薬理学会年会@横浜（2022年年12月）における次世代の会企画
 - ・次世代の会シンポジウム 担当：川畑 伊知郎（東北大）
 - 「神経疾患によりそう薬理学の最前線と社会実装への挑戦」
 - ・若手研究者キャリア形成支援プログラム
 - 1) 若手研究者キャリア形成セミナー
 - ①分子機序に基づく創薬から臨床情報に基づく創薬への転換点
 - 担当：永安 一樹（京都大） 演者：金子 周司（京都大）
 - ②製薬企業の薬理研究員としての提言
 - 担当：矢吹 梯（熊本大） 演者：石川 潔（田辺三菱製薬）
 - 2) 学生セッション運営補佐
5. 次回次世代薬理学セミナーは、第147回関東部会（2023年3月21日，東京大学：廣瀬 謙造 部会長）にてハイブリッド開催を行う予定。担当：宮川 和也（国際医療福祉大）
6. 次々回次世代薬理学セミナーは、第76回西南部会（2023年10月7日，琉球大学：筒井 正人 部会長）にて開催予定。担当：矢吹 梯（熊本大）
7. 次世代の会 HP (<http://angesjps.umin.jp>) の運営。担当：清水 孝洋（高知大），林 良憲（日本大）
8. その他：各種委員会への参画，Rising Star リトリートの候補者の推薦，IUPHAR の Early Career Researcher Committee の委員推薦。

XI. 2024, 2025 役員年度 役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

令和4年9月1日： 会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン

9月末日： 投票締切

10月4日： 4部会一斉開票（候補者決定）

7日： 選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	55	161	148	73	437
投票率 (前回)	41.7 (46.8)	33.3 (39.0)	36.9 (44.5)	47.4 (58.9)	37.3(%) (44.4)

開票管理者 北 部 会： 佐藤 久美 部会長， 古屋敷智之 総務委員長

関東部会： 廣瀬 謙造 部会長， 古屋敷智之 総務委員長

近畿部会： 杉浦 麗子 部会長， 古屋敷智之 総務委員長

西南部会： 齊藤 源顕 部会長， 古屋敷智之 総務委員長

【Web 選挙結果】（50 音順）

理事候補者

北 部 会： 久米 利明， 新田 淳美， 守屋 孝洋， 若森 実	以上 4 名
関東部会： 安西 尚彦， 池谷 裕二， 木内 祐二， 黒川 洵子， 坂本 謙司， 高原 章， 廣瀬 謙造， 村松里衣子， 森本 達也， 安井 正人	以上 10 名
近畿部会： 吾郷由希夫， 石澤 啓介， 大喜多 守， 川畑 篤史， 高井 真司， 富田 修平， 西村 有平， 西山 成， 橋本 均， 人見 浩史	以上 10 名
西南部会： 岩本 隆宏， 甲斐 広文， 西田 基宏， 柳田 俊彦	以上 4 名
監事候補者 平 英一， 田熊 一敞， 戸村 裕一， 西 昭徳， 三澤日出巳， 吉栖 正典	以上 6 名

2. 役員選挙（第二段選挙：年会参加登録者による Web 投票）

令和4年11月： 会員へのお知らせに役員候補者の抱負と役員候補者名簿掲載.

14日～18日： Web 投票

21日： 開票

令和5年3月： 学術評議員会で発表

理事候補者

北 部 会： 新田 淳美， 若森 実	以上 2 名
関東部会： 安西 尚彦， 木内 祐二， 黒川 洵子， 坂本 謙司， 廣瀬 謙造	以上 5 名
近畿部会： 吾郷由希夫， 石澤 啓介， 富田 修平， 西山 成， 橋本 均	以上 5 名
西南部会： 甲斐 広文， 柳田 俊彦	以上 2 名
監事候補者 戸村 裕一， 三澤日出巳	以上 2 名

令和6年3月： 役員選考委員会選出理事とともに総会で承認

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 1. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）.

XII. 2023 年度新學術評議員申請者一覽 (30 名)

※ 五十音順

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
1	浅岡 希美	京都大学大学院医学研究科 助教	9	中枢神経薬理	18 (18)	10	1	林 康紀
2	出石 恭久	就実大学薬学部 教職員 (助教)	10	免疫薬理・炎症	11 (11)	7	2	北村 佳久
3	稻生 大輔	大阪大学大学院医学系研究科 統合薬理学 特任講師 (常勤)	16	中枢神経薬理	9 (6)	12	0	日比野 浩
4	岡 真優子	京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 准教授	24	免疫薬理・炎症	73 (69)	16	9	富田 修平
5	岸 拓弥	国際医療福祉大学 福岡薬学部 教授	5	心血管薬理	159 (126)	2	0	安西 尚彦
6	北谷 和之	摂南大学薬学部 薬効薬理学 准教授	5	生化学薬理	80 (62)	15	2	奈邊 健
7	草苺 伸也	東京医科大学 薬理学分野 講師	7	中枢神経薬理	24 (6)	3	2	松岡 正明
8	久野 篤史	札幌医科大学医学部 薬理学講座 教授	16	心血管薬理	92 (66)	49	1	當瀬 規嗣
9	高露 雄太	九州大学大学院薬学研究院 助教	14	中枢神経薬理	19 (19)	7	1	津田 誠
10	齋藤 文仁	日本医科大学医学部 薬理学 准教授	7	中枢神経薬理	32 (32)	6	0	鈴木 秀典
11	佐藤慶太郎	山形大学医学部 薬理学講座 講師	6	消化器薬理	39 (33)	17	2	安達 一典
12	白水 崇	三重大学大学院医学系研究科 統合薬理学 助教	5	細胞内情報伝達	29 (29)	11	0	西村 有平
13	勢力 薫	国立大学法人大阪大学 特任助教 (常勤)	13	中枢神経薬理	21 (21)	10	0	橋本 均
14	宗 可奈子	京都大学大学院薬学研究科 助教	10	末梢神経薬理	12 (9)	6	4	中川 貴之
15	高橋 浩平	国際医療福祉大学薬学部 助教	7	中枢神経薬理	31 (31)	16	3	辻 稔

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学会集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
16	千葉 彩乃	山形大学医学部 薬理学講座 講師	14	細胞内情報伝達	14 (11)	3	1	小原祐太郎
17	永井 裕崇	神戸大学大学院医学研究科 薬理学分野 助教	6	中枢神経薬理	35 (30)	12	0	古屋敷智之
18	中川 恵輔	大阪医科薬科大学薬学部 病態分子薬理学研究室 助教	6	腎薬理	8 (8)	7	0	大喜多 守
19	西村 明幸	自然科学研究機構 生理学研究所心循環シグナル研究部門 特任准教授	9	細胞内情報伝達	38 (29)	22	4	西田 基宏
20	西山 和宏	九州大学大学院薬学研究院 生理学 講師	8	受容体・チャネル・輸送系	44 (37)	17	6	西田 基宏
21	任 書晃	岐阜大学医学部 生理学 教授	11	末梢神経薬理	50 (37)	19	1	日比野 浩
22	廣野 守俊	和歌山県立医科大学医学部 医学科生理学第二講座 准教授	6	中枢神経薬理	32 (32)	2	0	益岡 尚由
23	藤川理沙子	九州大学大学院薬学研究院 薬理学分野 助教	13	免疫薬理・炎症	21 (20)	4	3	津田 誠
24	細谷 拓司	株式会社富士薬品 薬理第一グループ長	14	消化器薬理	7 (6)	6	0	坂本 謙司
25	松田 将也	摂南大学薬学部 薬効薬理学研究室 特任助教	8	免疫薬理・炎症	20 (14)	24	4	奈邊 健
26	松本 信圭	東京大学大学院薬学系研究科 助教	7	中枢神経薬理	30 (25)	15	2	池谷 裕二
27	宮脇 出	住友ファーマ株式会社 前臨床研究ユニット長	16	毒科学	35 (32)	2	2	安西 尚彦
28	持田 淳美	国際医療福祉大学薬学部 助教	10	中枢神経薬理	30 (25)	33	1	辻 稔
29	吉田 一貴	高崎健康福祉大学薬学部 助教	11	免疫薬理・炎症	11 (9)	23	1	松岡 功

特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学会集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
30	若命 浩二	北海道科学大学薬学部 薬理学分野 教授	1	生理活性物質	64 (51)	1	0	佐藤 久美

XIII. 日本薬理学会「薬理学エディケーター」認定者名簿（19名／五十音順）

（認定期間：令和5年1月1日～令和9年12月31日）

今 西 正 樹	徳島大学
柏 原 俊 英	北里大学
角 山 圭 一	姫路獨協大学
金 谷 泰 宏	東海大学
喜 多 知	福岡大学
後 藤 愛	東邦大学
佐 藤 正 晃	北海道大学
関 口 富美子	近畿大学
坪 井 一 人	川崎医科大学
富 田 和 男	鹿児島大学
名 和 幹 朗	東京医科大学
林 良 憲	日本大学
古 谷 嘉 章	エーザイ株式会社
松 村 暢 子	帝京大学
宮 野 加奈子	東京慈恵会医科大学
村 田 幸 久	東京大学
森 脇 一 将	大阪医科薬科大学
山 本 梓 司	埼玉医科大学
王 登 莉	岡山大学

第38回日本薬理学会学術奨励賞受賞者

(五十音順)

北田 研人 (香川大学医学部薬理学・助教)

『「全身性体液保持機構」の発見とその病態生理学的意義の解明』

清水 翔吾 (高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門薬理学・助教)

『排尿を促進する脳内物質の発見と排尿障害に対する新規薬物治療戦略の基盤構築』

西山 和宏 (九州大学大学院薬学研究院生理学・講師)

『Gタンパク質共役型受容体の機能性修飾に着目した薬理学的研究』